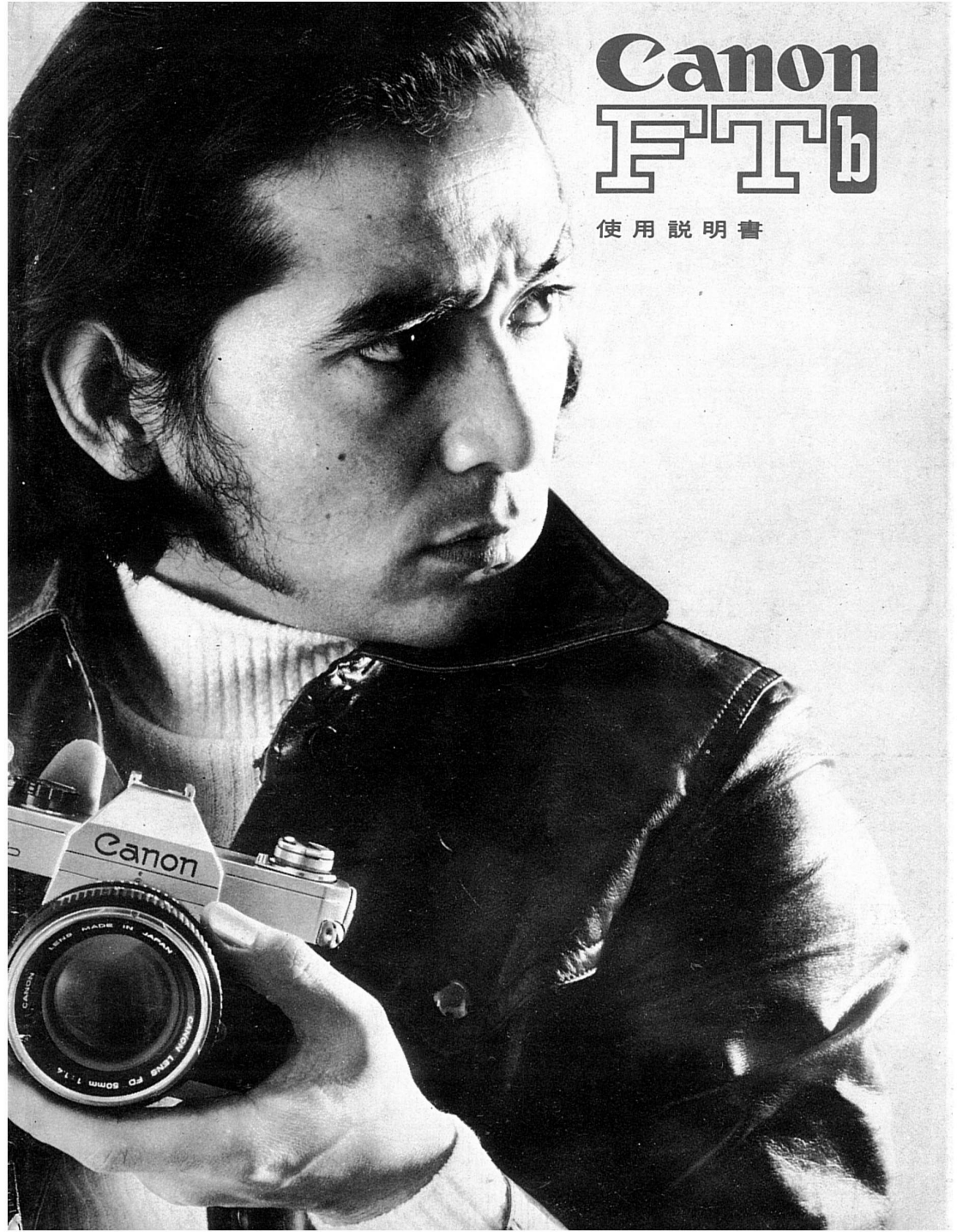


Canon FTb

使用説明書



このたびはキヤノンFTbをお選びくださいますことありがとうございます。キヤノンは世界のカメラとして親しまれ、製品を通じて皆様の「楽しい生活」の実現にたゆまぬ努力を続けています。

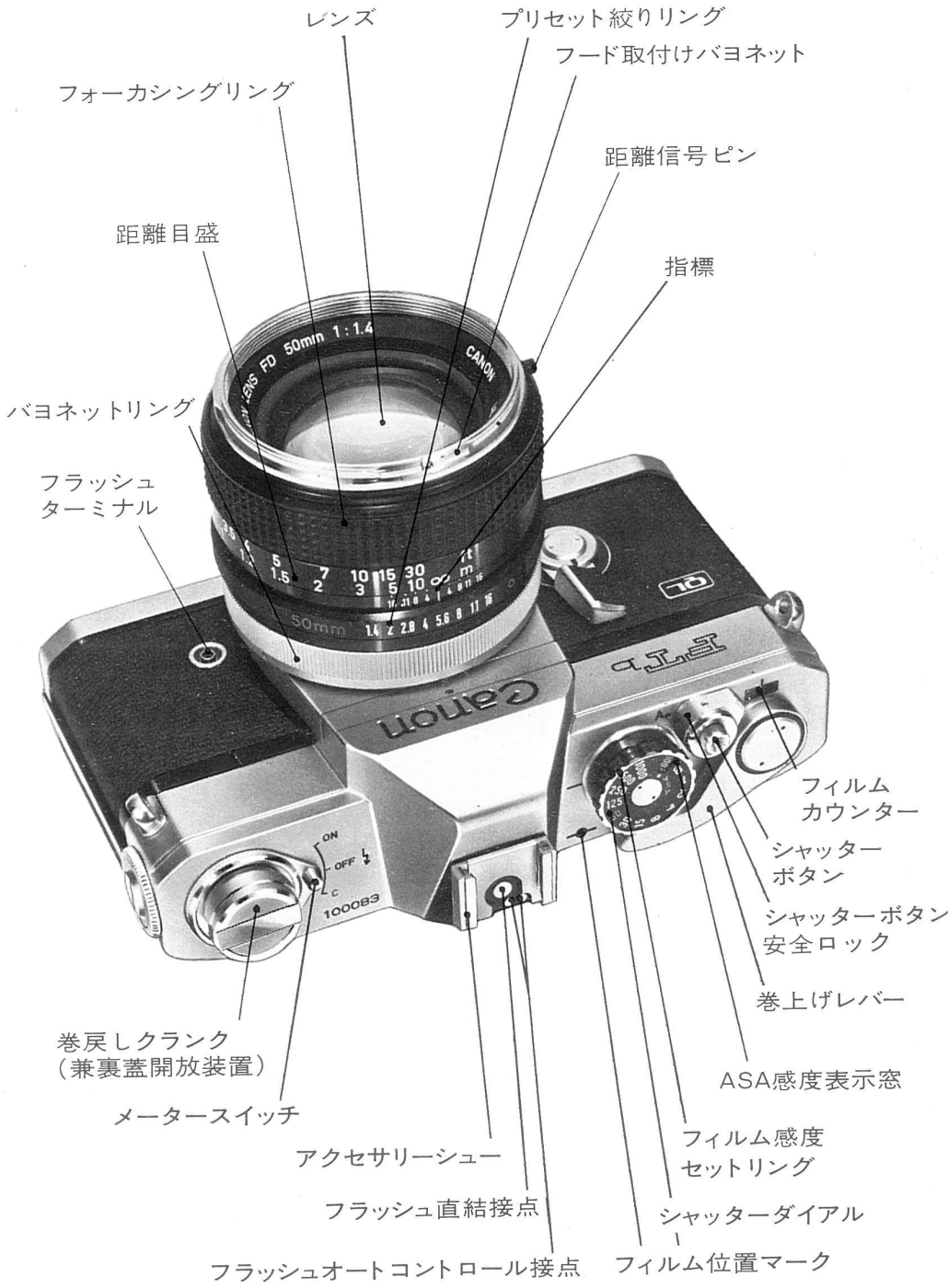
つねに新しい時代の要求とセンスを反映した製品をお届けすることを心がけ、多年の経験に加えて独自の理論と生産技術を総合し、近代かつ合理的な生産方式で、材料から完成品まで一貫作業により製造を行っております。

ご家庭に、ご研究に、ご旅行、ハイキングに、十二分にご利用ください。

《ご使用のはじめに》

まず使用書をお読みいただき、各部の名称を覚え、操作も順を追って理解しましょう。





レンズ

プリセット絞りリング

フード取付けバヨネット

フォーカシングリング

距離信号ピン

距離目盛

指標

バヨネットリング

フラッシュ
ターミナル

フィルム
カウンター

シャッター
ボタン

シャッターボタン
安全ロック

巻上げレバー

ASA感度表示窓

巻戻しクラック
(兼裏蓋開放装置)

フィルム感度
セットリング

メータースイッチ

アクセサリシュー

フラッシュ直結接点

シャッターダイヤル

フラッシュオートコントロール接点

フィルム位置マーク

キヤノンFTb主要性能

- 型 式：35mmフォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックスカメラ
- 画 面 サ イ ズ：24mm×36mm
- レ ン ズ：開放測光用信号レバーをもつFDシリーズ標準レンズおよび交換レンズ群、絞込み測光用FLレンズ群
- 標 準 レ ン ズ：キヤノン FD55mm F 1.2 FD50mm F 1.4
FD50mm F 1.8
- フ ァ イ ン ダ ー：固定ペンタプリズム使用のアイレベルファインダー
ファインダーアタッチメント：アングルファインダーA マグニファイヤー 視度補正レンズ4種
- ピ ン ト グ ラ ス：フレネルレンズ使用 高解像力性ピントガラス マイクロプリズム距離計付
- コ ン デ ン サ ー：測光用ハーフミラー付
- 視 野 情 報：距離計 測光部範囲 メーター指針および追針 不適正露出警告マーク 絞込み測光用定点兼水銀電池チェック用マーク メーター連動範囲外警告信号
- 視 野 倍 率：標準50mmレンズ∞遠の場合0.85倍
視野 実画面の94%
- ミ ラ ー：ノンショッククイックリターンミラー ミラーはね上げロック可能（手動絞りセット）
- レ ン ズ マ ウ ン ト：バヨネット式FDマウント FL R各レンズ取付け可能
- 取 付 け 機 能：FDレンズー開放測光 自動絞り連動
FLレンズー絞込み測光 自動絞り連動
- シ ャ ッ タ ー：布幕フォーカルプレーンシャッター シャッターボタンロック可能
- シャッターダイヤル：一軸不回転式 $\frac{1}{1000} \sim 1$, B
倍数系列等間隔目盛 60はX接点 ASA目盛セットつき
- 使用フィルム感度：ASA25～2000の20段階
- セルフタイマー：内蔵式 シャッターボタンで始動 時限約10秒 絞込み測光レバー兼用

露出調節機構：シャッタースピード フィルム感度 絞り値に連動する追針式TTL開放測光機構 FDレンズの開放F値自動補正機構付 CdSをコンデンサー後方に配置した中央測光方式 測光部は画面の約12%サイズは12×8mm

FLおよびRレンズに対しては定点式絞込み測光 測光レバーロック可能

露出計連動範囲：ASA100 EV25 (F12 $\frac{1}{4}$ 秒)～EV18 (F16 $\frac{1}{1000}$ 秒)
低輝度側連動範囲外では 警告信号赤マークが出る

メーター用電池：JIS (日本工業規格) H-D型 1.3V 水銀電池1コ使用
米国製MALLORY PX-625 EVEREADY EPX-625に相当

電池チェッカー：内蔵ASA100 $\frac{1}{1000}$ でチェック

超低照度測光：ブースターの接続でASA100 EV-35 (F12 15秒)～EV10 (F22 $\frac{1}{2}$ 秒)まで測光可能

シンクロフラッシュ：FP接点およびX接点 タイムラグ自動調整式

ソケット：ボディ前面にJIS B型ソケット アクセサリーシュー部にはフラッシュ直結接点およびフラッシュオートコントロール接点あり

CATシステム導入：充電信号および測距信号による追針式絞りコントロール機構 専用直結ストロボ フラッシュオートリングおよび指定レンズFD50mm F14 F18およびFD35mm F2, F35との連結により メーター追針方式で適正絞りが設定できるシステム (CANON AUTO TUNING SYSTEM)

同調範囲：FP級- $\frac{1}{1000}$ ～ $\frac{1}{125}$ 秒 $\frac{1}{30}$ 秒以下
ストロボ- $\frac{1}{60}$ 秒以下 キャッツは $\frac{1}{60}$ 秒専用
M MF級- $\frac{1}{30}$ 秒以下

巻上げレバー：1作動174°回転レバー 小刻み巻上げ可能

フィルム装填：独特のQL迅速簡易装填

フィルム巻戻し：巻戻しボタンおよびクランク操作 巻戻しボタンは自動復帰式

二重露出：巻戻しにより可能

フィルム枚数計：自動復帰順算式

大きさ・重量：144×93×43mm

750g(ボディのみ)/FD50mm F14付 1,120g

キヤノンFTbの特長

キヤノンFTbは、FTの発展型です。性能、精度面において世界最高級キヤノンF-1の開発技術を全面的に反映させたものです。ことに、F-1の開放測光方式と相まって、新設計された新鋭FDレンズ群のシステムをそのまま導入、更に専用ストロボによる独特のフラッシュオート機構CATSの組込みなど、魅力ある特長をもたせ得た、最もオーソドックスな一眼レフです。その主な特長は、

1. 正確なTTL中央開放測光方式

F-1同様、FDレンズ群を使用する開放測光方式を導入しました。これは、FTの理想的な中央測光方式を開放でできるようにしたもので、精度に於ては申し分ありません。FDレンズは、この開放F値誤差をボディ側と連結して自動補正するもので、取付け時に何ら調節を必要とせず、直ちに開放で測光が行なえます。また、FLレンズを取付けた場合には、FT同様絞込みによって正しい露出が得られるため、お手持ちのレンズがすべて駆使できることとなります。

2. 新開発のFD交換レンズ群

F-1と共用する高品質、高性能レンズ群です。今後10年間、最高の性能を維持する目標の下に、コンピューターを駆使した大幅な光学設計活動によって生まれたレンズです。広角、望遠の系列化、特殊レンズの開発など、FTbの性能を一段と強化します。独自の焦点調節機構、多層膜コーティング、新素材の導入等可能な限りの技術が追求されています。したがってFTbの撮影分野は益々拡大され大いに期待できます。

3. 独自のフラッシュオート機構の採用

一般のフラッシュ撮影のほか、専用ストロボと指定レンズおよび距離信号用フラッシュオートリングの使用により、絞り値の決定を開放測光同様ファインダー内で追針式に行なえるフラッシュオート機構です。ストロボの電圧チャージとピント合わせが信号としてメーター指針に入りますから、絞りリングを回して追針を重ねるだけで適正絞りが得られます。従来のガイドナンバー計算を全く不要とし、安心してストロボ撮影が楽しめる機構です。

使用できるレンズは、FD50mm F 1.4、F 1.8およびFD35mm F 2、F 3.5の4本ですが引続き拡張準備中です。

4. その他

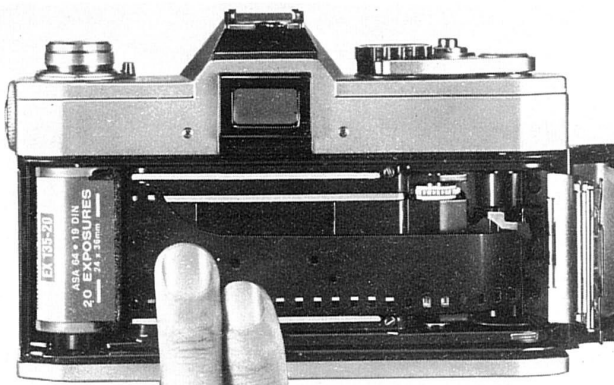
明るいファインダー、合わせ易いピント調節、快適なシャッター、操作性の良い巻上げレバー、シャッターボタン、ノンショックミラー、簡易装填QL機構等。

— 目 次 —

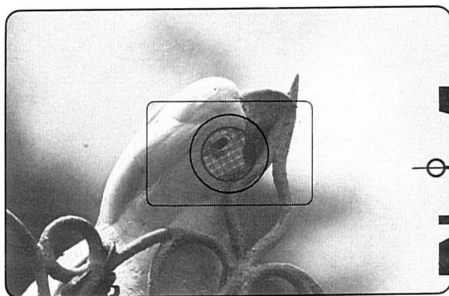
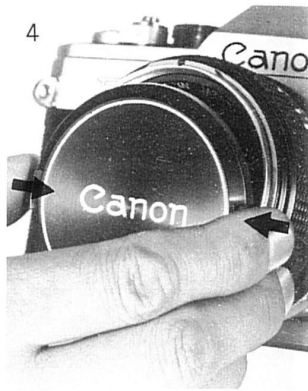
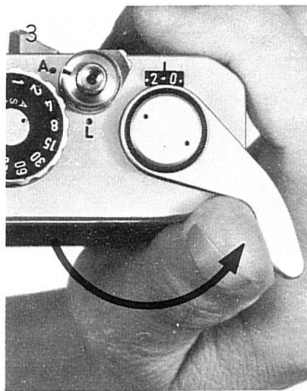
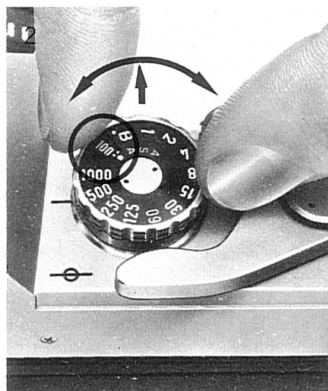
水銀電池のつめ方	10
水銀電池のチェック	
巻上げ操作	12
巻上げとシャッターボタン 撮影枚数表示 シャッターの安全装置	
ケーブルリリースの取付け	
シャッターと絞り	14
シャッターダイヤル レンズの絞り 自動絞り 手動絞り	
ピントの調節	20
視度補正レンズ アングルファインダーA マグニファイヤー	
TTLメーターの使い方	22
その準備(フィルム感度のセット) 使用できるフィルム感度	
開放測光	24
絞込み測光	28
カメラの構え方	30
フィルムのつめ方(QL装填)	32
フィルム感度表示 フィルム装填の確認	
フィルムの巻戻し	36
セルフタイマー	39
フラッシュ同調	40
フラッシュオートリング用距離信号ピン	
レンズの取扱い	42
レンズの交換 レンズ信号 距離目盛 赤外マーク フィルム位置	
マーク 被写界深度目盛 被写界深度の性質 FDレンズマウント	
(FLレンズとRレンズ)	
ミラーのはね上げロック	50
二重露出	52
キャノンフィルターのおすすめ	53
カメラの保存と手入れ	54
交換レンズ	56
アクセサリ	56
キャノンプースターのおすすめ	59

【撮影手順】

1



1. フィルムをつめる
2. 感度を合わせる
3. レバーを巻上げる
4. キャップをはずす
5. ファインダーを覗きピントを合わせる
6. メーターで露出をきめる
7. 構図をきめてシャッターボタンを押す



5





《フード》

レンズ先端のバヨネット部にはめ合わせて右回しにすると装着できます。また標準、広角レンズのうち、特殊なものを除いてフードを逆向きにかぶせ、バヨネット金具にはめ合わせて左回しにすると固定され、そのままレンズキャップをしてカメラ皮ケースに収納できます。

《レンズキャップ》

両側のつまみを押込むとはずせます。取付けのときも同様です。レンズキャップはフィルター取付けねじを利用して取付けできるようになっていますから、ねじ付きフィルターの上からもかぶせられます。



【水銀電池のつめ方】

別封の水銀電池をカメラの水銀電池室につめてください。

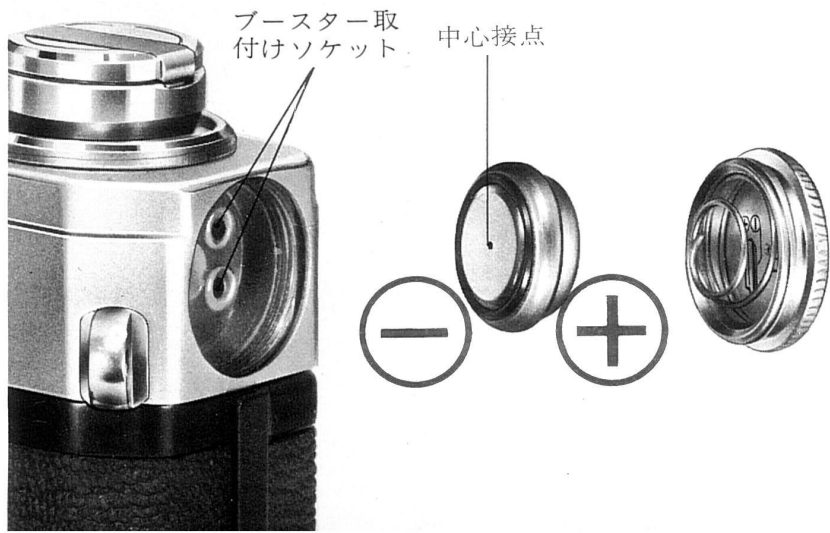
水銀電池は内蔵メーターの電源ですから、これを入れ忘れるとメーターが作動しません。

1. 水銀電池室蓋のコイン溝に硬貨をあてて左回しにはずし。
2. 水銀電池の中心接点（⊖）を奥に向けて挿入し、蓋をねじ込みます。挿入の向きを間違えると蓋がねじ込めません。
3. 水銀電池は、JIS(日本工業規格) H-D型 1.3V 1コ使用。米国製 MALLORY・PX-625, EVEREADY・EPX-625に相当し、約1ヵ年の使用に耐えます。

4. 汗や指紋を拭きとってください。

水銀電池に汗や指紋をつけたまま挿入しますと、ときに接触不良によりメーターが作動しないことがあります。また腐蝕してカメラの電気接点をそこなうおそれもあります。必ず乾いた布で拭きとってください。

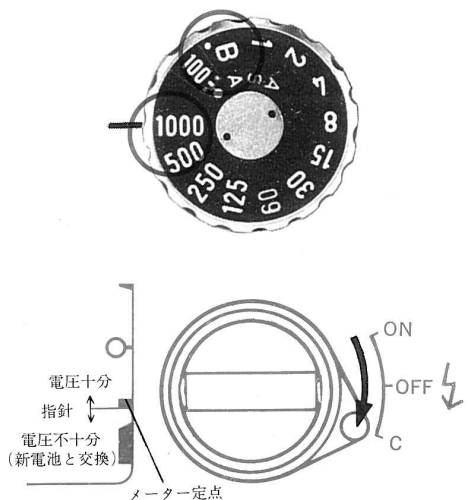
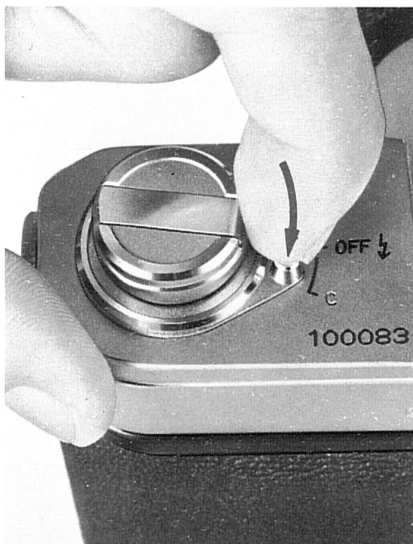
5. 長期間使用しないときは、水銀電池を抜取りカメラを乾燥した場所へ保存してください。



《水銀電池のチェック》

電池をつめたあと必ず電圧をチェックしてください。また長期間使わなかったときも調べて、電圧不十分の場合には交換してください。

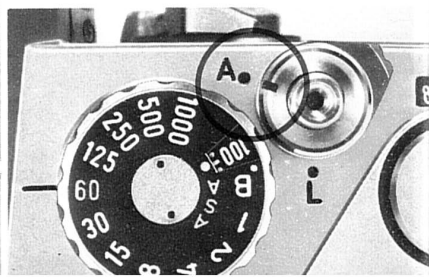
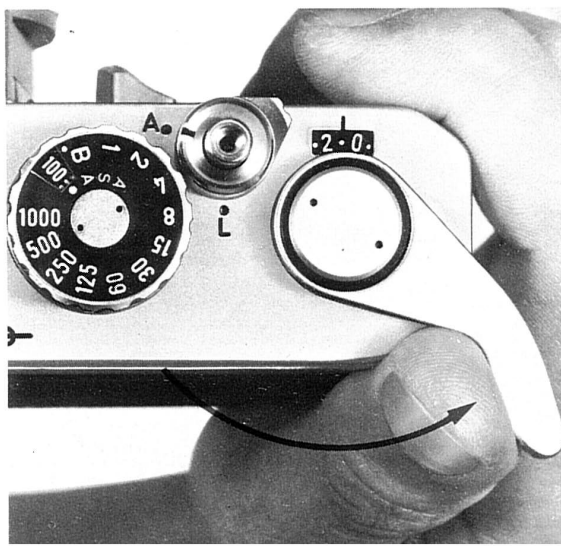
1. シャッターダイヤル上の感度目盛をASA 100 にセットし、シャッタースピードを1000に合わせます。
これ以外の目盛では正しいチェックができません。
ASA感度の合わせ方は、シャッターダイヤル周辺のリングをもち上げて回します。(23頁参照)
2. 巻戻しノブ下部のメータースイッチをC位置まで回してください。
3. このとき、ファインダー指針が定点以上に振れれば電圧は十分です。もし指針が、定点まで振れない場合には不十分ですから新しい電池と交換してください。
4. メータースイッチは指をはなすとOFF ↓位置に戻ります。
5. カメラを使用するときは、メータースイッチをONにセットしてください。



【巻上げ操作】

《巻上げとシャッターボタン》

1. 巻上げレバーはフィルムの巻上げおよびシャッターと絞りとミラーの作動チャージなど、内部機構の巻上げを一度に行なうものです。
2. 巻上げの前にシャッターボタン周囲の安全ロックを回し、指標をA位置に合わせてください。
3. 巻上げレバーを完全に止まるまで回すと、フィルムが1コマ分送られ、シャッターがチャージされます。同時にフィルムカウンターも1目盛進みます。
4. シャッターボタンを押すとミラーがはね上り、同時にレンズの絞りがきめられた絞り値まで絞込まれ、ついでシャッターが走行し露出が行なわれます。そして絞りは開放にミラーは定位置に復帰し、一連の作動が完了します。
5. 巻上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合にはもう一度巻上げを確かめてください。



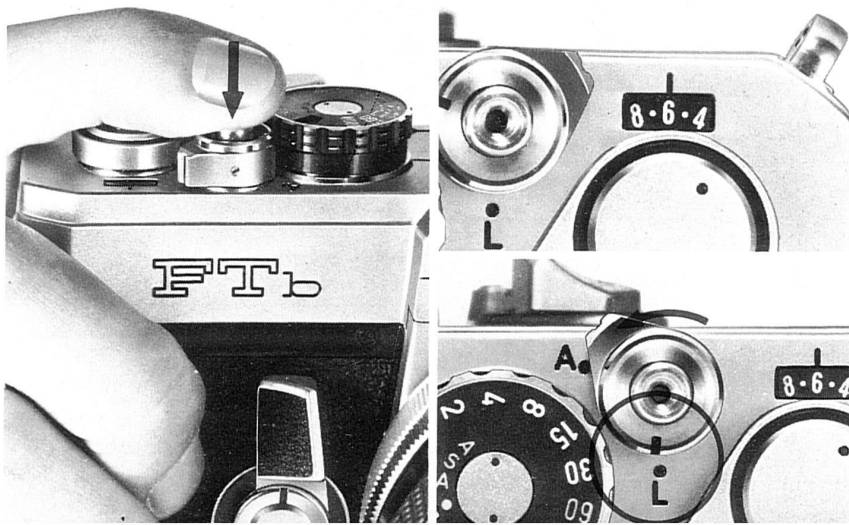
6. 巻上げレバーはシャッターの作動後、直ちに巻上げできる状態になります。
7. 巻上げは、レバーを小刻みに繰り返し操作してもできます。

《撮影枚数表示》

レバーを1回巻上げるごとにフィルムカウンターが1目盛進んで、フィルムの撮影枚数を知らせます。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマークSまで戻ります。

《シャッターの安全装置》

シャッターボタンのまわりにある安全ロックを回し、指標をLの位置に合わせると、巻上げ後シャッターボタンが動かぬように固定されます。巻上げたままの携行またはバッグ内に収納するときご利用ください。

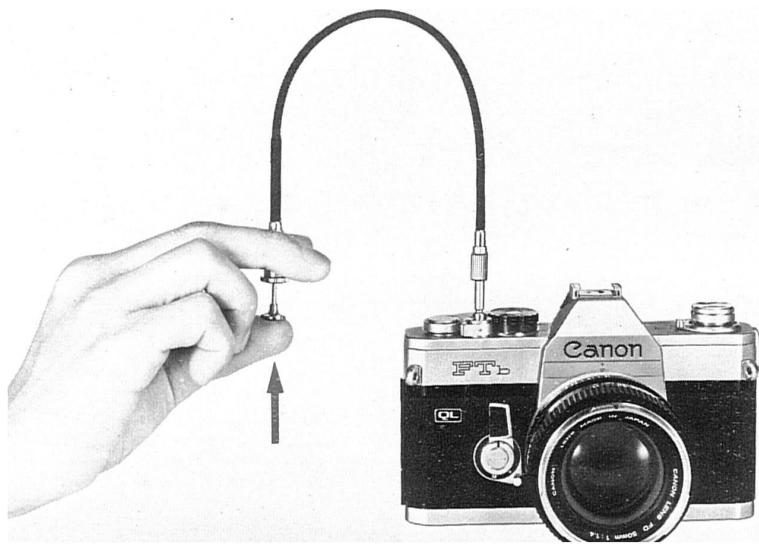


《ケーブルリリースの取付け》

シャッターボタンにはケーブルリリースをねじ込んで取付けできます。ケーブルリリースは静かにシャッターリリースができますから、長時間露出や望遠撮影で三脚にカメラを取付けた場合にご利用ください。また複写などのさいにも大変役立ちます。ケーブルリリースを使用する場合には、安全ロックレバーがL位置にあっても、シャッターが作動し巻上げも可能です。

【シャッターと絞り】

シャッターを開いてフィルムに光を与えることを露出または露光といいます。シャッターは露出時間の調節を行い、絞りは光の量を調節します。そして、このカメラは追針式TTLメーターを内蔵しており、開放測光により簡単に適正露出が得られるようになっています。



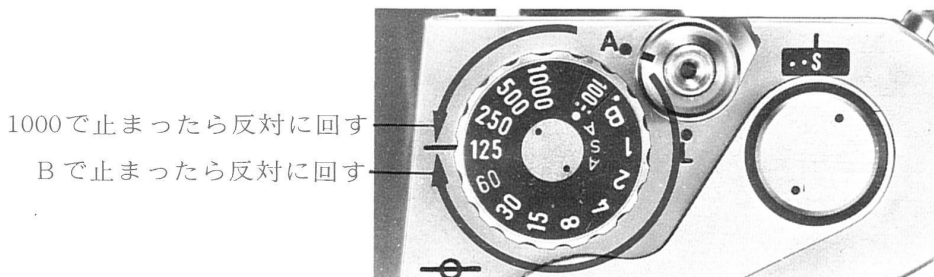
《シャッターダイヤル》

シャッター秒時(スピード)を調節するもので、目盛は各秒時の分母が表示されています。たとえば1000は $\frac{1}{1000}$ 秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒です。このダイヤルを回して、指標に必要な目盛を合わせれば、シャッターボタンを押したときに目的の露出時間が得られます。

ただしB-1000間は回転できない構造になっています。シャッタースピードは、1段ごとに速度が2倍になる倍数系列となっています。

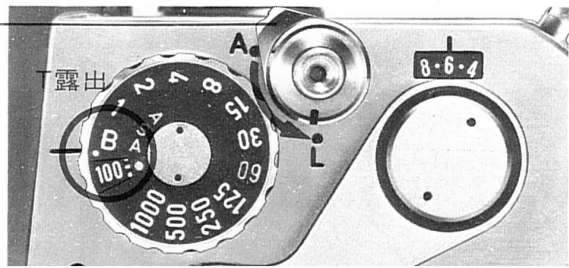
Bはバルブ露出で、シャッターボタンを押している間中シャッター幕が開いていますから、1秒以上の長時間露出に用います。極長時間のタイム露出が必要なときには、Bにセットし、シャッターボタンを押したまま安全ロックレバーを回して、指標をLに合わせてください。こうすると、指をボタンから離しても露出が続けられ、レバーをAに戻すと、シャッターが閉じて露出が終了します。

B, 1000間は指標に合わない



シャッターボタンを
押したまま回す

露出



T露出には、ロック付ケーブルリリースを利用することもできます。また長時間撮影の測光にはキャノンブースターをご利用ください。

60の橙色目盛は、ストロボ同調用で、シャッタースピードとしては $\frac{1}{60}$ 秒ですが、ストロボ使用時には、実際には、ストロボの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。

各目盛のセットは、カチッと止まるクリックストップ位置で行なってください。とくにB目盛の場合は、下の白点を合わせてください。

《レンズの絞り》

絞りはシャッタースピードと組合わせて、適正露出を行なうために用いられます。プリセット絞りリングを回して調節し、指標に合った目盛で明るさを読取ります。レンズの明るさ(開放公称値)は、この絞りの一番小さい数値の目盛をとって呼ばれており、目盛はその数値が大きくなるにつれて暗くなり、目盛の1段ごとに明るさが半分になるようになっていきます。したがって適正露出がきまっている場合、絞りを1目盛絞込んだときは、シャッター速度を1段おそくし、2目盛絞込んだときは、シャッター速度を2段おそくしてやれば、露出量は同じになります。絞りは目盛の中間を用いることもできますから、FDレンズでは絞りリングの目盛の中間、つまり半絞り位置にクリックストップを設けて使い易くしてあります。

レンズによっては最大口径の絞りと次の絞りとの間にだけ明るさが半分にならないものもあります。

絞り目盛と露光量の比率は、F 2を規準として次の通りです。

《絞り値》

12 14 18 2 28 35 4 56 8 11 16 22

《露光比》

3 2 $1\frac{1}{4}$ 1 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{1}{16}$ $\frac{1}{32}$ $\frac{1}{64}$ $\frac{1}{128}$

絞りのきめ方はTTLメーターにより簡単に行なえます。

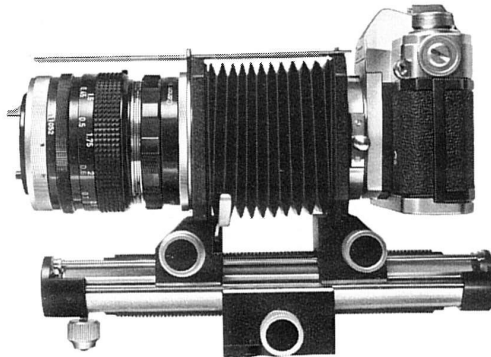
絞りは明るさの制限だけでなくピントにも関係しますから、効果を十分に理解してご利用ください。(47頁参照)

《自動絞り》

FDレンズは、絞りをプリセットしてもつねに開放でファインダー視野が見られ、シャッターを切った瞬間だけセットしてある絞り値まで、絞り羽根が絞込まれます。そしてシャッターが切れ終ると、再び全開して明るいファインダーに戻る自動絞りの構造をもっています。

《手動絞り》

1. 手動絞りは実際に絞込んだ場合のピント状態を確認するときや、接写、拡大撮影などの特殊撮影に使用します。
FDレンズには、絞りリングが1つしかありませんが、ボディ前面の絞込み用レバーをレンズ側に倒すと手動絞りの状態となり、プリセット絞りリングを回転させると絞り羽根が開閉されます。F-1、FT、ペリックス等も同様に使用できます。
2. レンズとボディの中間にアクセサリをはさんで撮影する場合には普通は自動絞りが使えませんから手動絞りに切替えます。セットのしかたは、レンズをはずし、後部の自動



絞りレバーを反時計方向に一杯に回してロックします。この状態でボディに取付けるとプリセット絞りリングの回転で羽根が開閉します。ロックを解除するには、自動絞りレバーを少し押し気味に戻します。またこの手動ロックを利用すれば、測光レバーをもたないFXなどのキヤノン一眼レフに取付けて、手動絞り撮影が行なえます。

《FD50mm F1.8の場合》

FD50mm F1.8レンズの手動絞り操作は他のFDレンズと異なります。自動絞りレバーを矢印方向に回して手動ロックレバーを(L)の位置へ動かします。この状態でボディに取りつけプリセット絞りリングを回転させると絞り羽根が開閉します。また手動ロックレバーを白点の方へ動かすと、手動絞りを解除できます。(FD50mm F1.8レンズはキヤノンフレックスR系列のカメラには使用できません)

FDレンズの
手動絞り操作



自動絞りレバー

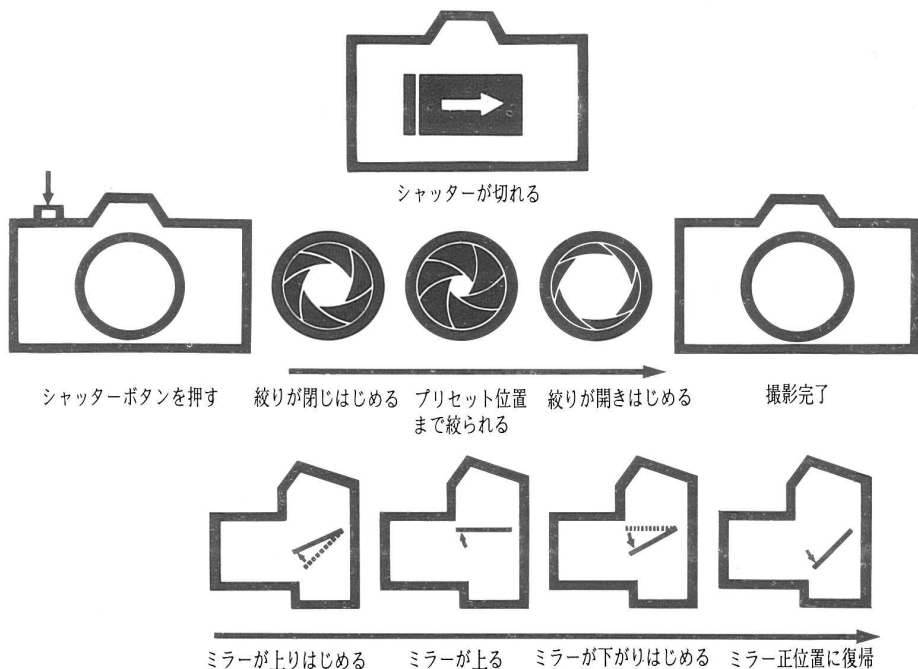
FD50mm F1.8の
手動絞り操作



手動ロックレバー

3. F-1, FTb, FT, ペリックス等の測光レバーをもったキヤノン一眼レフで手動絞りをを使用する場合には、絞込み測光操作で適正露光が得られます。
4. プリセット絞りリング上の緑の丸印は、F-1にサーボEEファインダーを取付けたときに使用するマークです。レンズをカメラに取付けた状態では、回すことはできません。またプリセット絞りリングを緑色マークに合わせたままでは、カメラや従来の底蓋に取付けることができません。ご注意ください。 ※レンズの取扱いは42頁をごらんください。

ミラーと絞りとシャッターの図



【ピントの調節】

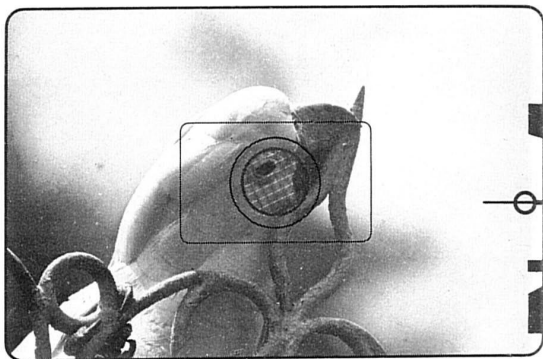
ファインダーを覗きながら、レンズのフォーカシングリングを回します。

ファインダー視野中央の、円形内の像が一致したときピントが合い、くずれたときピントがはずれています。

● 視野中央の円形は、微細な特殊プリズムを合成した焦点調節スクリーンです。ピントが合ったときは、円形内の像と同一距離にある被写体は、円形外の視野でも同じく鮮明に見えます。したがって平面的な被写体の場合には、円形外のマットガラス面でもピント合わせを行うことができます。

● 光線の状態によっては、ファインダー下方に、左右に走る円弧状の輝線が見えることがあります。これは、測光のためのミラーコンデンサーの接合面によるもので、撮影には何ら支障はありません。むしろキャノンのすぐれた測光方式によるものとご理解ください。

● FD55mm F1.2 レンズ付きで三脚へ取付ける場合、レンズが大きくフォーカシングがやりにくくなりますから、カメラホルダーFをご利用ください。



《視度補正レンズ》

ファインダーには視度補正レンズが用意されており、接眼部に取付けると近視や遠視の方が眼鏡なしで鮮明なファインダー像を見ることができます。

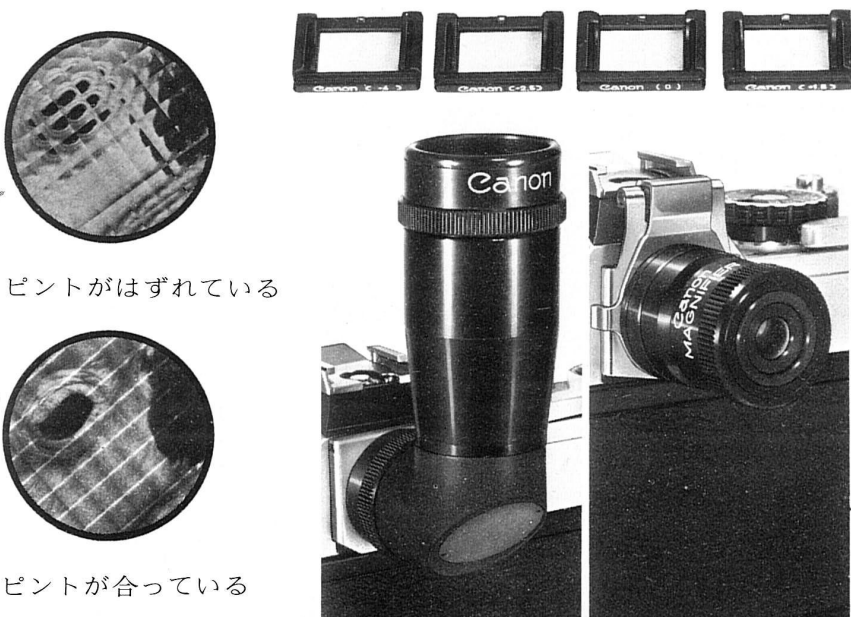
	+1.5	0	-2.5	-4	ジオプターの4種
適用度数	+22° ~ ∞	-25° ~ ∞	-10° ~ -20°	-7° ~ -11°	
	遠視側			近視側	

《アングルファインダーA》

接眼部に上方からさし込んで使用する胸高ルーペです。上方あるいは横位置にして覗けますから、複写、接写、拡大、顕写等のコピーワークや低位置からの撮影に便利です。

《マグニファイヤー》

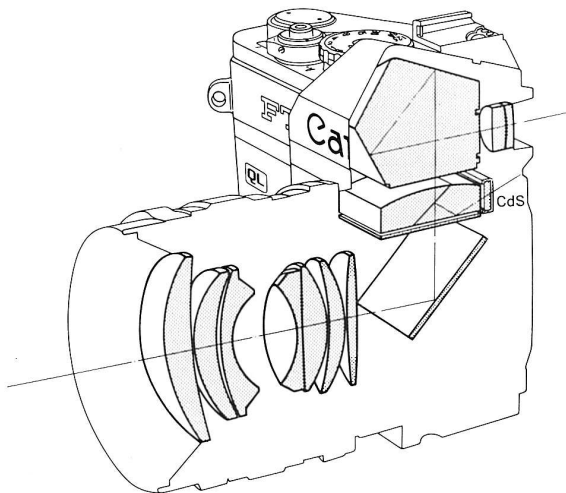
ピントグラス拡大観察用直視ルーペです。FT用アダプターと併用して上方から接眼部にさし込んで使用し、更にマグニファイヤー全体を上方にはね上げできるため、ピント確認後直ちに視野全体を眺めるという撮影操作が続けられます。



【TTLメーターの使い方】

キャノンFTbは、FDレンズとの組合わせでシャッタースピード、フィルム感度およびプリセット絞りリングに連動する追針式のTTL開放測光機構をもっており、焦点面に最も近い位置にCdSがありますから、きわめて正確な露出決定ができます。開放のまま測光するため、レンズの開放F値補正を自動的に行なう機構を組込んであり、どの明るさのFDレンズを取付けても操作は変わりません。

またFLレンズを取付けた場合には、絞込みによる測光が可能です。露出のきめ方には、シャッターを先に選ぶ場合と絞りを先に選ぶ場合の2通りありますが、いずれの方法にも慣れることがよい写真を写すために必要なことです。



《その準備(フィルム感度のセット)》

フィルム装填後，使用フィルムのASA感度を小窓に出します．それにはシャッターダイヤル周囲の感度セットリングをつまみ，持上げてから回します．フィルムがSS級なら100を出し，リングを落し込んでセットします．

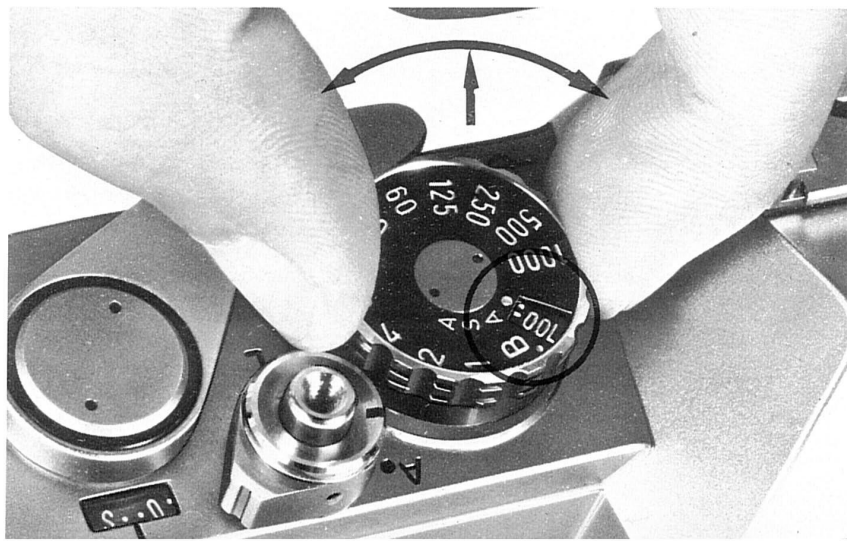
感度セットは，小窓にASA25が出たらそれ以上左へ回せません．逆に2000(・)が出たら右へ回せません．

《使用できるフィルム感度》

	(32)(40)	(64)(80)	(125)(160)	(250)(320)	(500)(640)	(1000)(1250)	(2000)													
ASA	25	50	100	200	400	800	1600													
(DIN)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34

上記カッコ内の数字は，中間の点に相当する感度です．

フィルム感度は光に感ずる速さで，フィルム外装箱または説明書に明記されています．



【開放測光】

開放信号ピンのあるFDレンズを取付けた場合、開放測光ができます。開放測光とはプリセット絞りリングをセットするだけで測光する方法です。この場合、絞り羽根は開いたままですから、ファインダーが暗くなりません。

1. メータースイッチをONにします。

2. シャッタースピードをきめます。

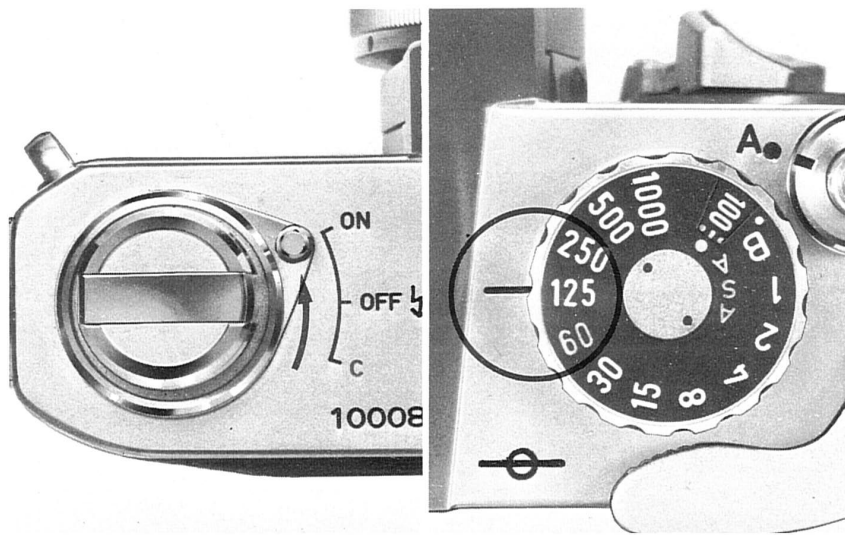
一般には室内は $\frac{1}{30}$ ～ $\frac{1}{60}$ 、曇天戸外 $\frac{1}{125}$ 、晴天 $\frac{1}{250}$ 以上(ASA100の場合)が適当です。

3. カメラを被写体に向けてファインダーを覗き、ピントを合わせます。

4. 中央長方形部が測光する範囲です。被写体の主要部に向けてください。

この部分がメーター受光部と同一面積になっており、この範囲に、被写体の中心となる部分を入れて測る方式です。

したがって、従来のメーターではむずかしかった逆光時の



露出決定も容易で、つねに撮影者の作画意図を生かした露出がきめられます。

5. 右側のメーター情報を見てください。
指針が2つあり、メーター指針はASA感度とシャッタースピードに連動し、また被写体の明るさに応じて上下します。丸の追針は、FDレンズのプリセット絞りリングに連動しています。
6. したがって、シャッタースピードを先にきめた場合には、プリセット絞りリングを回して、メーター指針に追針の丸を重ね合わせると適正露出にセットされます。
7. 逆に、絞りを先にきめた場合には、シャッターダイヤルを回して追針の丸にメーター指針を重ねます。
●追針の丸は中央が適正露出です。上下は約±0.5絞りの範囲になっています。
8. プリセット絞りリングを回しても追針が重ならないのは、シャッタースピードが適切でない場合です。シャッターダ

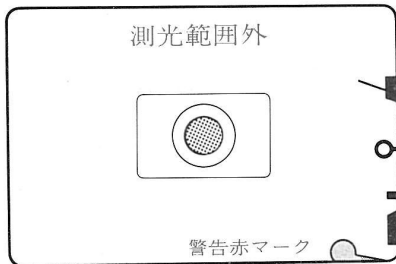
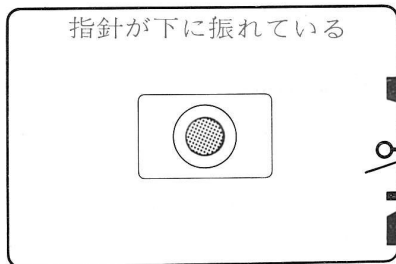
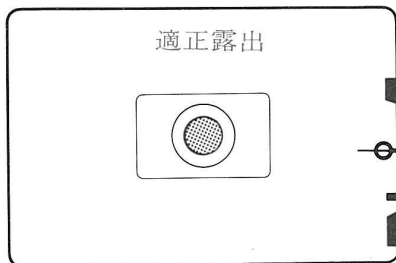
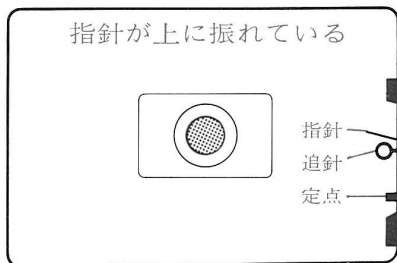


イアルを回して重ねてください。追針のメーター情報窓での移動範囲は、使用レンズの開放Fナンバーによって変わり、メーター情報窓の上下一杯に動くとは限りません。シャッタースピードを変えるのは、その追い切れない場合です。

9. シャッタースピードを高速側にセットするとメーター指針が下へ移動し、遅くすると上へ移動します。シャッタースピードがメーター連動範囲外のスロースピード(ASA100の場合 $\frac{1}{2}$ 秒以下)にセットされると、ファインダー下部には赤マークが出て警告します。

この条件下では絞りを変えても測光できません。フラッシュ撮影に切換えるか、高感度フィルムの使用またはブースターで測光することになります。

- メーター指針が上に振れている場合、シャッタースピードを速くします。
- メーター指針が下に振れている場合、シャッタースピードを遅くしてください。



10. メーターを使用しないときには、水銀電池の消耗を防ぐためスイッチをOFF \downarrow にしてください。
切り忘れても、電流消費量はわずかですから、余り心配にはなりません。
11. シャッターダイヤルがB目盛では測光できませんし、意味もありません。
12. 逆光時には必ずレンズフードをご利用ください。
13. メーターの使用時、明るさの変化によって針の動きが鈍る場合もありますが、Cd Sの特性によるもので故障ではありません。

メーター連動範囲

ASA	使用できるシャッタースピード										
25	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000
50	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000	
100	4	8	15	30	60	125	250	500	1000		
200	8	15	30	60	125	250	500	1000			
400	15	30	60	125	250	500	1000				
800	30	60	125	250	500	1000					
1600	60	125	250	500	1000						
	22	22	22	22	22	22	22	22	16	11	8
	← 使用できる最小絞り →										

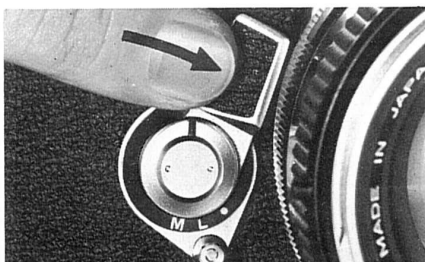
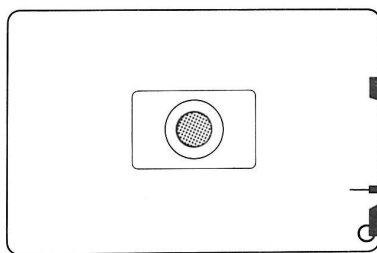
読み方はASA100のフィルムを使用した場合100の欄を横に見ます。シャッタースピードは $\frac{1}{4}$ から $\frac{1}{1000}$ まで連動することがわかります。各シャッタースピードに対する絞りは、最大開放F値から上表下段に示された最小絞り値まで連動します。

【絞込み測光】

開放測光信号のないFLレンズを取付けた場合には、絞込み測光を使います。絞込み測光とは絞り羽根を実際に絞込んだ状態、つまり撮影時同様の光線状態で測定する方法です。

絞込み測光は絞込みレバーを倒して行ないます。

1. シャッタースピードをきめます。
2. カメラを被写体に向けてファインダーを覗き、ピントを合わせます。
3. 測光部を被写体に合わせ、絞込みレバーを倒すと、絞りが絞られます。このとき追針は下部警告マーク内に逃げ、メーター指針のみ残ります。
4. そのままプリセット絞りリングを回して、メーター情報窓の定点にメーター指針が入るように調節します。メーター指針が入れば絞りは適正露出にセットされます。
●定点は中央が適正露出です。上下は約±0.5絞りの範囲になっています。
5. 絞りを先にきめた場合には、シャッターダイヤルを回して



調節します。その場合シャッターダイアルのクリックストップに必ず入れてください。

6. 絞込み測光レバーは、倒すと絞りはプリセット位置まで絞込まれ、レバーから手を離すとレバーが戻り、絞りも開放に戻ります。

ロックレバーをL位置に回しておくと、レバーを倒したさい絞りが手動にロックされ、レバーから手を離しても開放に戻りませんから、操作が楽になります。

またロックしたままシャッターを切ることもできますから、測光後も開放に戻さず、そのままシャッターを切ってください。ピント状態も確かめられ、かつショックが少なく速写性も増します。

ロックレバーを元の位置に戻せば、絞込みは解除されます。

7. メーター指針が定点より上方にあり、絞りを絞っても定点に合い切れない場合には、シャッタースピードを速くしてください。
8. メーター指針が定点より下方にあり、絞りを開いても合い切れない場合にはシャッタースピードを遅くしてください。
9. ファインダー下部に赤マークが出たら、メーター連動範囲外ですから、フラッシュを使用するか、ブースター測光に切換えてください。
10. FLレンズとFTbの組み合わせでは、絞込み測光で正しい露出が得られます。
11. FDレンズとFTbの組み合わせでは、開放測光で正しい露出が得られます。
12. FDレンズには開放F値補正信号があり、絞り開放のときに正確な露出を与えるようメーターを補正してあるため、原則として開放測光をおすすめします。

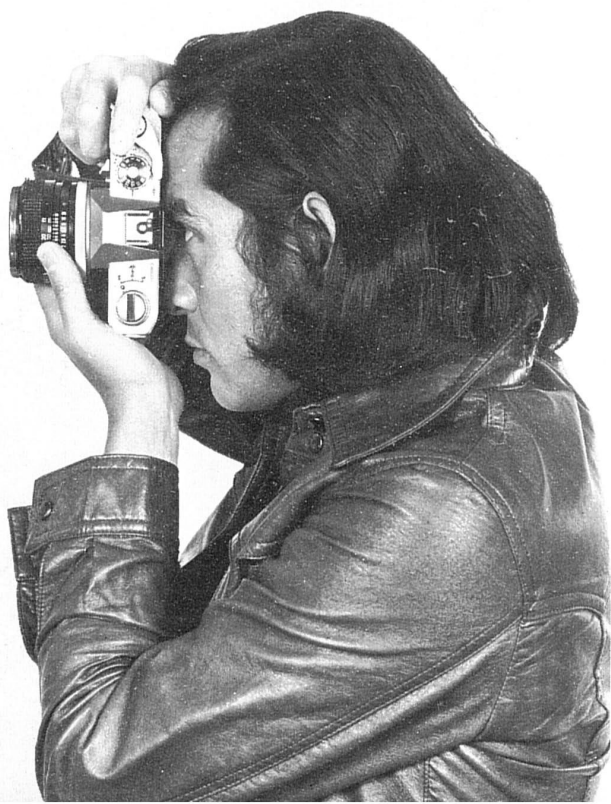
【カメラの構え方】

撮影のさいカメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真を撮影するために大切です。カメラは縦位置、または横位置の状況にしたがって写真のようにもち、ファインダーを覗いて構図と露出をきめ、ピントを合わせてから静かにシャッターを切ります。そのさい特に次のことが大切です。

1. 両手はつとめて深くカメラを握り込むこと。
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
3. 横位置のときは両ひじを、縦位置のときは少なくとも一方のひじを、ピッタリ体に付けること。



4. シャッターボタンを乱暴に押すとカメラブレの原因になります。静かに押してください。
5. 撮影には三脚とケーブルレリーズの使用をおすすめします。特に望遠レンズや遅いシャッタースピードを使用するときは絶対必要です。
6. 三脚使用のためのカメラホルダーFおよびキャノンレリーズが用意されています。ご利用ください。

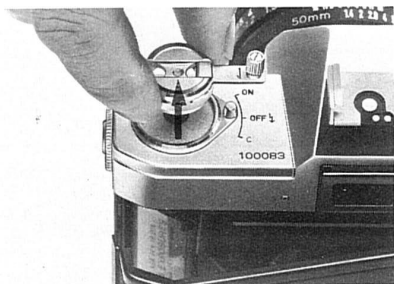


【フィルムのつめ方(QL装填)】

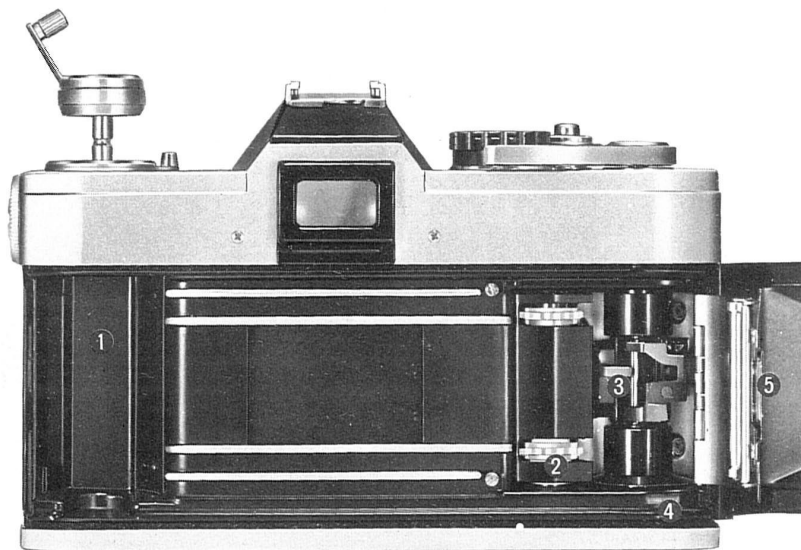
使用フィルムは市販の日中装填用パトローネ入り35mmフィルムです。装填のさいは直射光下をさけてお取扱ください。

1. 裏蓋を開きます。

巻戻しノブを上方に引上げると裏蓋が浮上がりますから一杯に開いてください。巻戻しノブは一杯に引上げた状態にしておきます。



1. パトローネ室
2. スプロケット
3. QLスプール
4. フィilmセット位置マーク
5. QLカバー

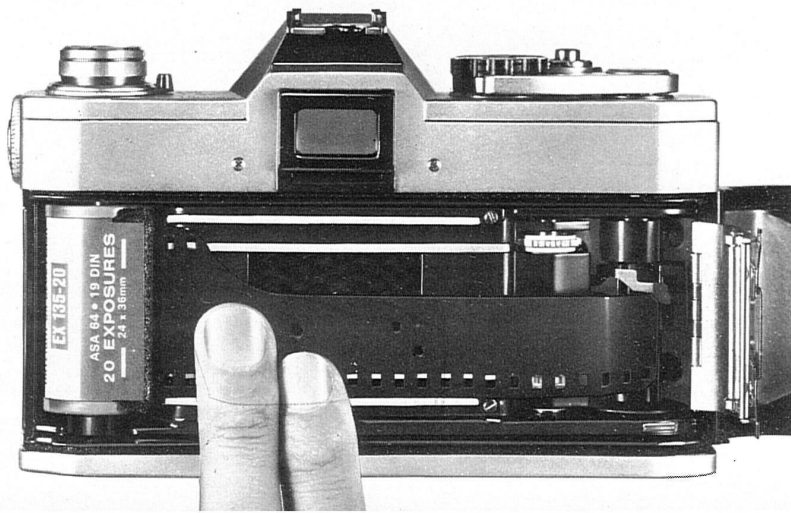


2. フィルムをつめます。

パトローネ軸の出張りを下向きにして、パトローネをフィルム室に入れます。巻戻しノブを押下げて先端をパトローネ軸にさし込みます。ノブが完全に戻り切れないときは、押し気味にして左右にわずか回すとさし込みます。

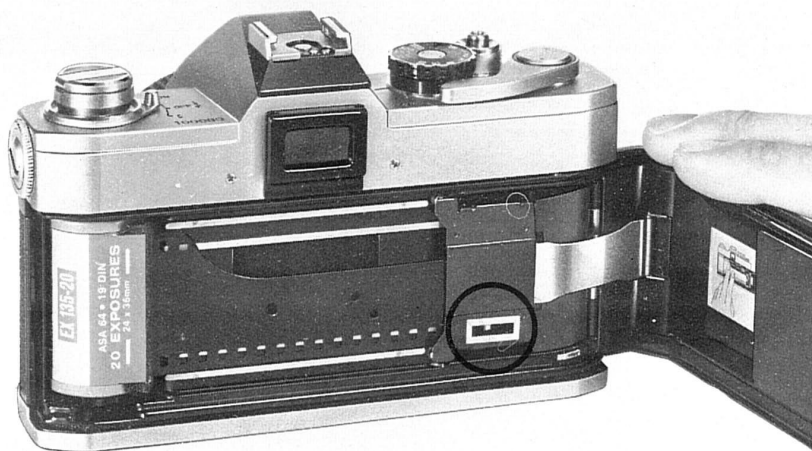
3. フィルムを引出し、先端をセット位置マークに合わせQL爪の上ののせます。そのさいフィルムを出しすぎてパトローネ口が浮かないよう気をつけてください。

4. パトローネのフィルム口を浮かないよう左手で押え、

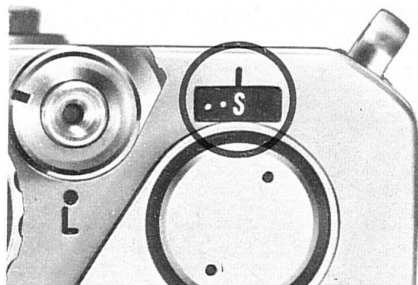


- 裏蓋を半ば閉じると、QLカバーがフィルムをおさえます。
このとき確認窓内でフィルム穴(パーフォレーション)がスプロケットの歯にかかっていたら、
- 裏蓋を閉じます。裏蓋は押付けるとロックされます。
- 3回空写しをします。

レンズキャップをかぶせたまま、巻上げてシャッターを切る操作を3回繰返すと、フィルムカウンター目盛がSから0になり、次に巻上げると1枚目を表わす点に進み、撮影準備が完了します。



フィルム枚数計Sから0へ



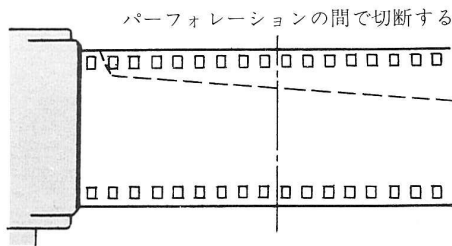
暗室装填用長巻きフィルムを使用するときは、下図のように切断し、先端を巻取り方向に巻きぐせをつけてください。

《フィルム感度表示》

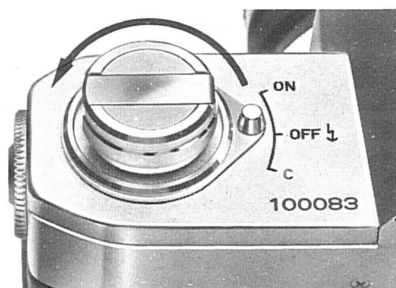
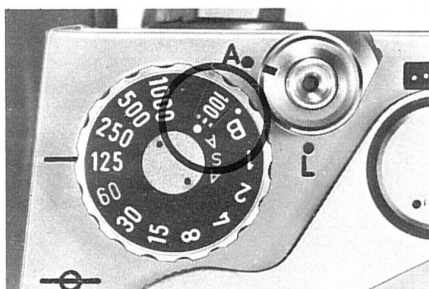
フィルムの装填をしたときは、忘れずにフィルム感度をシャッターダイヤルの小窓に表示してください。表示のしかたは、23頁参照。感度を合わせませんとメーターによる適正露出が得られなくなります。

《フィルム装填の確認》

巻上げをするたびに、巻戻しノブが反時計方向に回れば、フィルムが正しく装填されている証拠です。もし回らなければ、フィルムにたるみがあるか、スプロケットにパーフォレーションがかかっていない場合です。巻戻しノブを回してたるみをとっても、巻上げ時に巻戻しノブが回らない場合には、いったんフィルムを巻戻してから装填しなおしてください。ただしフィルム全部をパトローネに巻込まないようご注意ください。



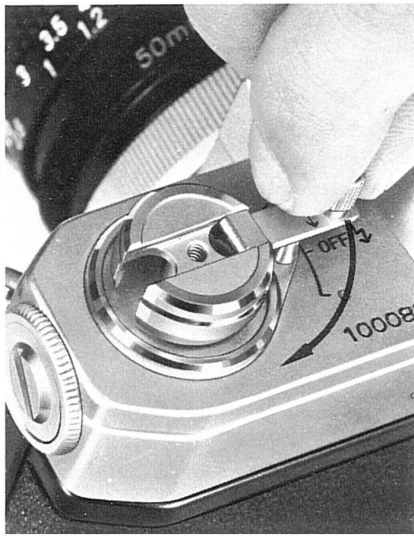
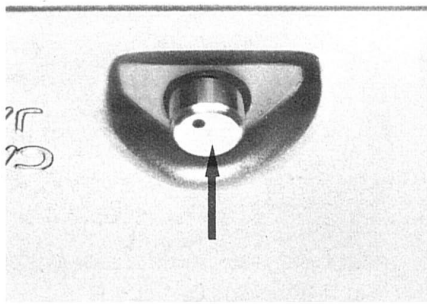
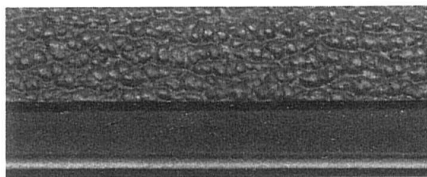
ASA感度



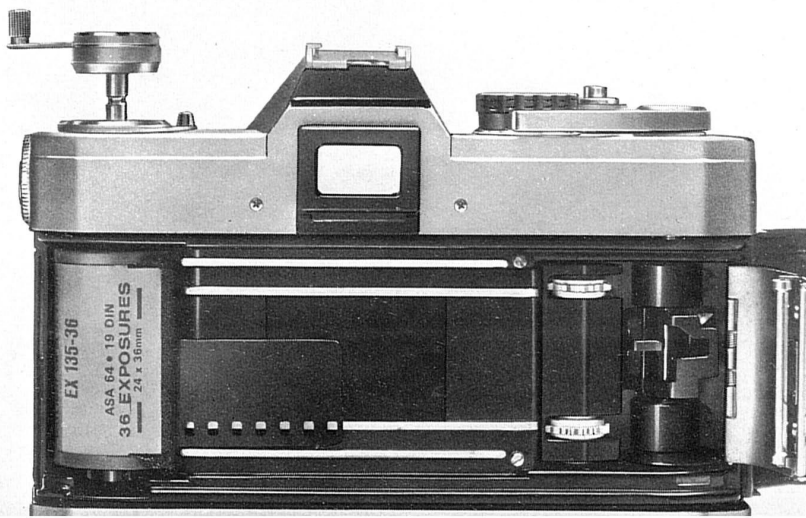
【フィルムの巻戻し】

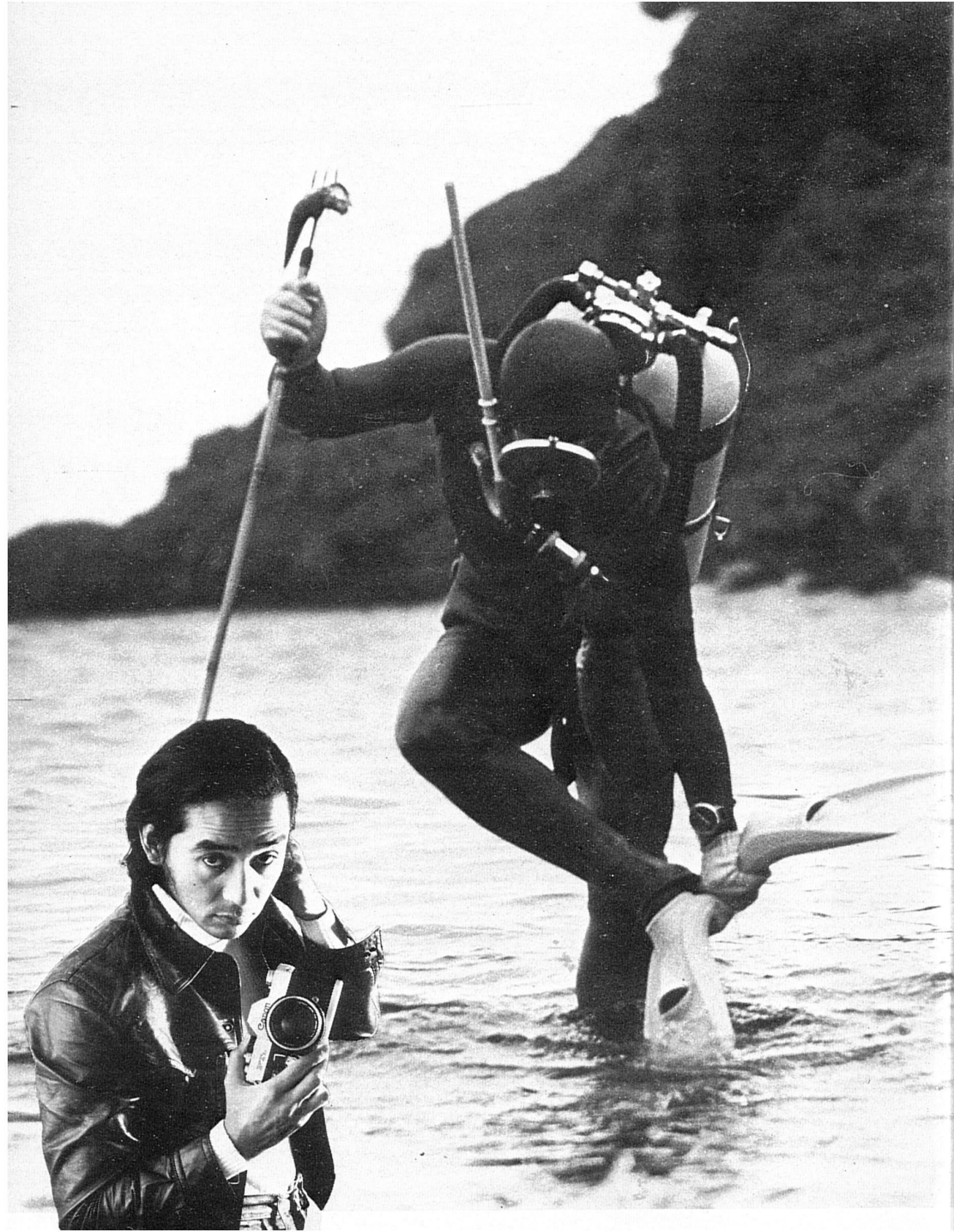
撮影されたフィルムは、カメラの中で裸のまま巻取られていますから、そのまま裏蓋を開くとフィルムを全部無駄にしまいます。撮影後は、必ずフィルムを元のパトローネ内に巻戻さねばなりません。

1. フィルムが終りになると、巻上げがきつくなりますから巻上げを止めます。
2. カメラ底部の巻戻しボタンを押込みます。ボタンは一度押せば指を離してもさしつかえありません。
3. 巻戻しクランクを起こし、巻戻しクランクに刻印された矢印方向に回し、フィルムをパトローネ内に戻します。巻戻し中、抵抗が軽くなり巻戻しボタンの回転が止まったら、巻戻し操作を止めます。



4. 裏蓋を開き、パトローネを取出します。
5. 巻戻しボタンは、巻上げレバーを1回巻上げると元の位置に自動的に戻ります。
6. フィルムが終りにになっているのに無理に巻上げると、フィルムがパトローネ軸からはずれたり、切れたりして巻戻しができなくなります。ご注意ください。
この場合暗室またはダークバッグの中で、裏蓋を開いて巻戻してください。
7. フィルム装填が不確実で装填し直す場合、巻戻し過ぎてパトローネ内にフィルムを巻込んでしまいますと、装填できなくなりますからご注意ください。





【セルフタイマー】

1. 巻上げレバーを巻上げ、シャッターをチャージします。
2. セルフタイマーレバーを下図に示す矢印方向に止まるまで一杯に回し、(内側の矢印)
3. シャッターボタンを押してください。
4. まずセルフタイマーレバーが作動し、約10秒後に露出が行なわれます。
5. シャッターチャージを忘れると、セルフタイマーレバーのみ動き、シャッターは作動しません。
6. セルフタイマーレバーは、巻上げ後、定位置に戻して測光に使用することができます。
7. ミラーロックした状態で、セルフタイマーレバーをセットすると、ミラーロックは解除されてしまいます。セルフタイマーをセットしてからのミラーロックは可能です(50頁参照)。
8. セルフタイマーセットを途中で止めると、シャッターがロックされ、押せないことがあります。このときは、セルフタイマーレバーを一杯に回せば解除されます。



【フラッシュ同調】

本機では直結式専用ストロボ、キヤノンスピードライト133D使用による追針式のフラッシュオート撮影と、普通の発光器による同調撮影ができる設計になっています。前者をCANON AUTO TUNING SYSTEM略してCATSキャッツと呼びます。キャッツに接続使用できるレンズはFD 50mm F 14, F 1.8およびFD35mm F 2, F 3.5の4本で、距離信号を伝えるフラッシュオートリングを併用します。FTbのキャッツはストロボの充電電圧量と撮影距離が信号としてメーター回路に入りますから、プリセット絞りリングを回してメーター針に追針を重ねるだけで適正露出が得られます。

キャッツ撮影は、シャッターが $\frac{1}{60}$ 秒専用、メータースイッチをOFF ↓ で使用します。一般のストロボおよびフラッシュユニットの場合は、コードでフラッシュターミナルと接続します。その場合の露出は、ガイドナンバーを撮影距離で割り、絞りを算出してセットします。算出単位はガイドナンバーがメートルなら撮影距離もメートルを使用し、メートルとフィートを混用してはなりません。スピードライト133Dで指定以外のレンズを使用する場合も同様に算出して使用できます。フラッシュターミナルはJISB型です。ブラケットタイプのストロボでフラッシュターミナルを使用する場合には、アクセサリシューの直結接点に付属の感電防止用カバーをさし込んでください。

同調表 ●本機のX接点は目盛60です。

フラッシュバルブ	シャッタースピード											
	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B
FP級	○	○	○	○	×	※○	○	○	○	○	○	○
M, MF級	×	×	×	×	×	※○	○	○	○	○	○	○
ストロボ	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○

※ $\frac{1}{60}$ 秒の場合バルブのバラつきにより多少露出ムラのあることがあります。

×の部分には使用できません。

※CATSは $\frac{1}{60}$ 秒専用です。

《フラッシュオートリング用距離信号ピン》

キャノン独自のフラッシュオート式ストロボ用距離信号ピンでキャノンFD50mm F 1.4, FD50mm F 1.8, FD35mm F 2 , F 3.5の4本のレンズについており、フラッシュオートリングを取付けたさい、フォーカシングリングの回転量つまり撮影距離をそのリングを通じてメーターに伝達します。

これによってガイドナンバーの計算なしに、プリセット絞りリングを回して追針式に、ファインダー内で露出の決定ができるようになっています。

フラッシュオートリングは、レンズ前面に取付け、コードにより専用ストロボ、キャノンスピードライト133Dに接続します。



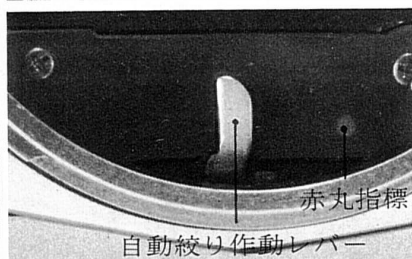
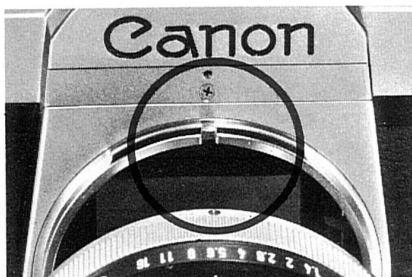
【レンズの取扱い】

《レンズの交換》

1. カメラからレンズをはずすには、レンズのバヨネットリングを反時計方向に回し、リングの赤点とボディの赤点が合った位置で前方に引出します。レンズを取付けるには、カメラのマウント部の赤点にレンズの赤点を合わせてはめ込み、バヨネットリングを時計方向に回して締付けます。このさい、レンズのバヨネットリングの赤点が、バヨネットリングの横にある位置ぎめ指標の真上になれば取付けできません。

交換レンズの底蓋をはずす場合も同じ要領で、バヨネットリングを左回しに一杯に回してください。底蓋をはずしたらそのままの状態ボディに取付けてください。

2. レンズ交換のさいには、絞込み測光レバーのロックを解除しておいてください。ロックされたままの状態ですと、レンズの自動絞りレバーが、ボディの自動絞り作動レバーに連結しない位置になり、自動絞りがはたらかなくなりますから、ご注意ください。このときボディ連動部には、不作



動を知らせる赤丸指標が見え、注意を促します。

同じくレンズの自動絞りレバーが、正位置にあることを確かめてください。ロック位置にありますと、自動絞りが作動しません。

3. レンズ交換のさい、プリセット絞りリングを緑色マークに回さないでください。この位置はF-1とサーボE Eファインダー併用時にセットするマークでFTbでは使用できません。
●FDレンズを取付けのさい、プリセット絞りリングが最小絞りをこえて緑色マーク側にずれていると、バヨネットリングを一杯に回しても正規の取付け位置に回されないため、最小絞り付近の絞りセットが不正確になりますからご注意ください。
4. 交換のさいには、直射光下を避け素早く行なってください。レンズを取付けずにボディを放置しておく、フィルムにカブリを生ずるおそれがありますのでご注意ください。
5. ボディやレンズのマウント部には、絞りの作動レバーをはじめ各種の信号があり、いずれも大切な部分ですからいためないでください。レンズをはずしたときは、必ず蓋をかぶせて保護してください。
6. 底蓋の取付けは、ボディの取付けと同じ要領で、底蓋位置ぎめ溝にレンズの位置ぎめピンをはめ、バヨネットリングを回して固定します。ただしプリセット絞りリングが緑色マークにセットされていると、従来の底蓋には取付けできません。
7. レンズをはずした状態、つまりバヨネットリングの赤点が位置ぎめ指標の真上にあるとき、あるいはプリセット絞りリングが開放値にセットしてあるときには、絞りレバーを動かしても羽根が動かず、また信号レバーも動かない安全機構になっています。故障ではありません。

《レンズ信号》

●絞り信号レバー

自動絞りのプリセット絞り量をカメラ側に伝達するレバーで、プリセット絞りと1対1の動き量です。このレバーはバヨネットリングを取付け位置に回すと作動する状態にセットされる安全装置付きです。

●開放信号ピン

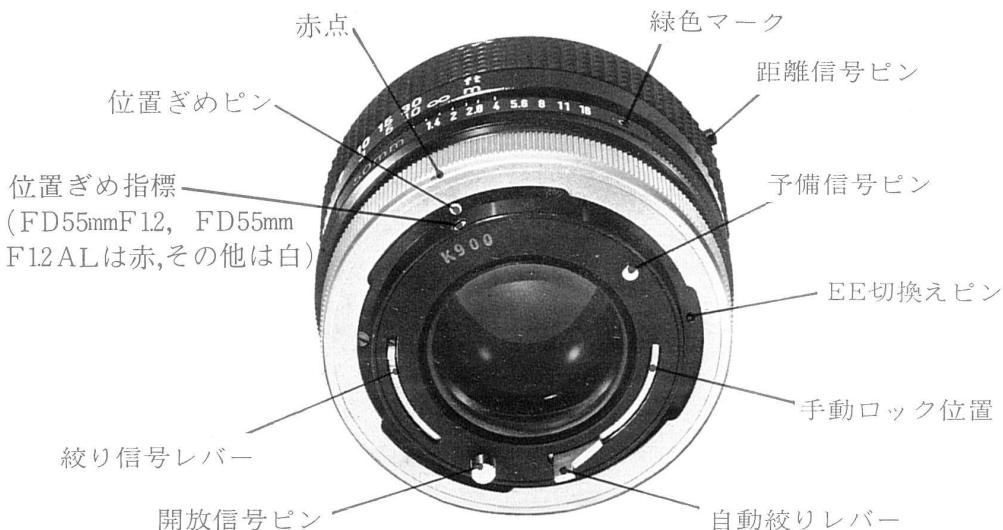
各レンズの絞り開放値の伝達ピンで、レンズ交換により開放F値が変わった場合でも、開放測光の誤差補正がレンズ装着時に自動的に行なわれます。

●自動絞りレバー

カメラと連動して、絞りをプリセット位置まで絞込む連動レバーです。手動ロック位置にクランプして手動絞りとなります。

●EE切換えピン

プリセット絞りリングを緑色マークにセットすると出てくるピンでF-1以外に取付けできなくなります。またFTbボデ



ィに取付け後は緑色マークにセットできません。取付けのときご注意ください。

●予備信号ピン

FDレンズとFLレンズ判別ピンですがFTbには関係ありません。システムアクセサリ開発のための予備ピンです。

《マクロフォトカプラーへの取付け》

接写，拡大撮影等でレンズを逆向きにしてマクロフォトカプラーに取付け使用する場合には，自動絞りレバーを手動側にロックした上で，さらにバヨネットリングをマウント取付け位置まで回してください。そうしないと手動絞りができません。

※ 手動にセットした状態で絞り信号レバーを動かさないでください。

《距離目盛》

距離目盛はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すもので普通の撮影には必要ありませんが，被写界深度を知る場合や赤外撮影，あるいはガイドナンバーを使用するフラッシュ撮影などには必要となります。目盛は1桁数字の距離では，その文字の中心，2桁数字では2つの文字の間，3桁数字では，中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置です。



《赤外マーク》

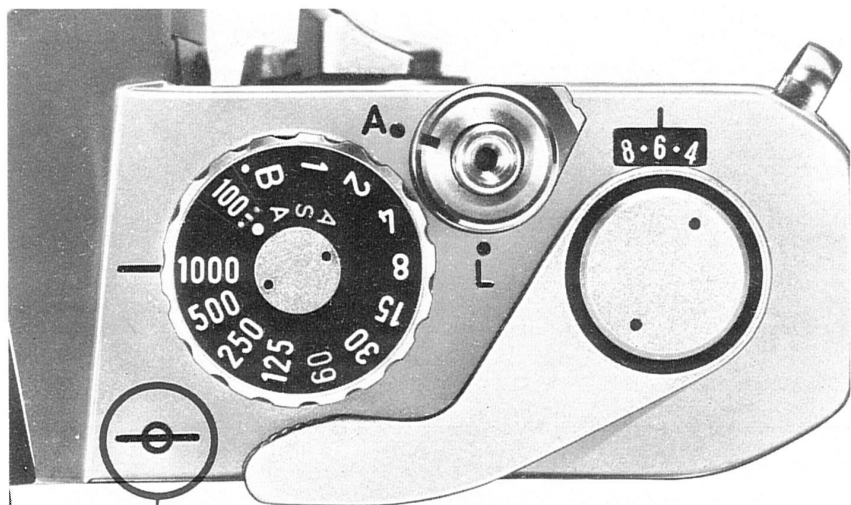
赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれますから修正しなければなりません。やり方は普通にピントを合わせ、その距離目盛を読取り赤外マークに合わせるだけです。

たとえば、ピント合わせで距離目盛が10mなら、その10の目盛を赤外マークの位置までずらせばよいわけです。

赤外マークは800m μ 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター、たとえばコダックIR 135フィルムとラッテン87フィルターとを用いる場合を基準にして目盛ってあります。

《フィルム位置マーク》

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛ってあります。したがって、実測によってピントを合わせる場合にはフィルム位置マークから測って、その距離をレンズ目盛にうつします。一般撮影にはあまり必要がなく、接写、複写時に、アクセサリーの使用表から実測してカメラ位置をきめるのに主として利用されます。



《被写界深度目盛》

ひとつの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は撮影距離と絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて絞り数値が目盛られています。

《F 8 に絞った場合》

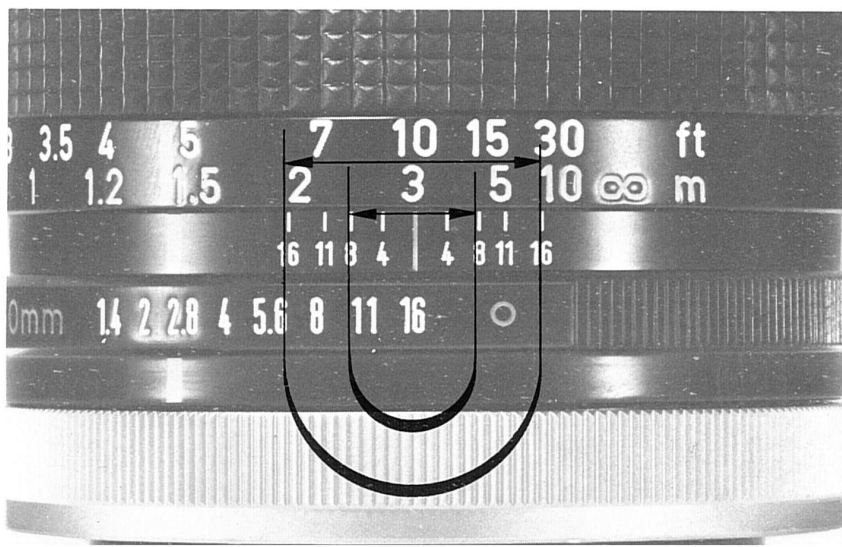
被写界深度目盛の使い方は、たとえば50mmレンズで3 mの距離にある被写体にピントを合わせ、F 8の絞りを使うとすれば、下図のように距離指標の両側にある8の目盛に対応する距離目盛、すなわち約23 mと約43 mとを読取ります。そしてこの間にある被写体が、鮮明に写ることを目盛から知るわけです。

《F 16に絞った場合》

同じくF 16に絞れば約1.9 mから7.6 mまで鮮明に写ることがわかります。

《被写界深度の性質》

ある被写体にピントを合わせると手前よりも後方に深く、レンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど前後に深くなり、逆の



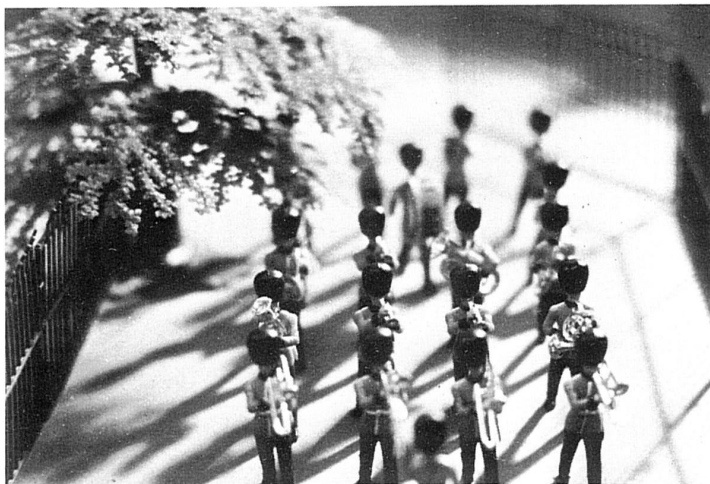
場合ほど浅くなります。同じ撮影距離で同じ明るさの場合にはレンズの焦点距離が短いものほど被写界深度は深くなります。キヤノンFTbで深度の観察をするには、絞込みレバーを倒してファインダーを覗いてください。

《FDレンズマウント(FLレンズとRレンズ)》

FTbのレンズマウントはF-1, FT, ペリックス, FX, FP等と同一ですからペリックス専用の広角レンズFLP 38mm F 28を除き, FLレンズのすべてが共用できます。この場合自動絞りが連動し, 絞込み測光ができます。また従来のキヤノンフレックス用Rレンズはすべて取付け可能ですが, 絞り機構が異なるため手動絞り撮影となり, 測光時には絞込みレバーを併用します。

レンズの泡は, 明るさを何百分の一か何千分の一か減らすことにはなりますが, 撮影上全く問題になりません。また像の鮮鋭度にも影響ありません。

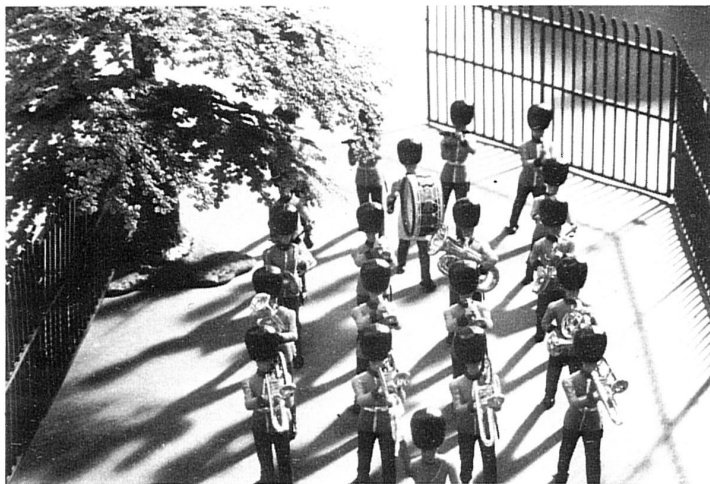
《被写界深度の作例》



F 8 に絞った場合

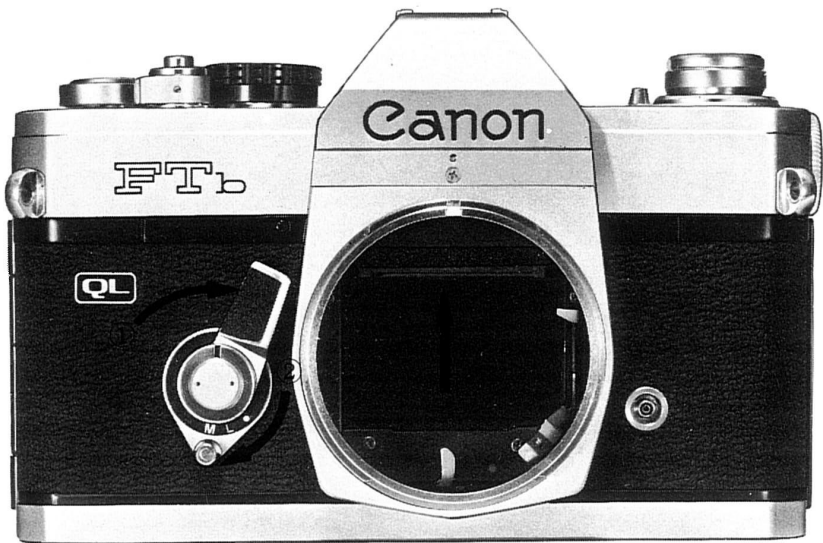


F16 に絞った場合



【ミラーのはね上げロック】

1. 超広角撮影や顕写などでは構図をきめたのち、なるべくショックを与えずにシャッターを切る必要があります。このような場合にはミラーを上方に固定して、ミラーによるショックを減少させることができます。
ロックのしかたは、絞込み測光レバーを倒し、測光ロック状態にしてから、さらにミラーロックレバーをM位置に回すとミラーが上方に固定されます。
その場合測光レバーのロックを確実にこなしてください。ロックが不十分ですとミラーが上がりっぱなしになることがあります。
2. ミラーロックでの撮影は手動絞り撮影の状態となり、シャッターのみ作動します。FL19mm F3.5レンズを使用する場合には、レンズが後に出張っているため、レンズ取付け前にミラーロックを行なっておきます。このレンズ使用のときは別に専用ファインダーが必要です。ミラーロックはシャッターの巻上げやシャッタースピードに関係なく行なうことができ、またフィルムの無駄送りもありません。
3. ミラーロックを行なったときは、一眼としての機能を失い、距離合わせが目測になります。
4. ミラーロックをしたままで撮影しないときには、シャッター幕の焼け穴防止およびフィルムの光線引き防止のため、レンズに必ずキャップをしてください。
5. ミラーロックを利用したあとは、必ずミラーロックレバーを戻してください。
6. ミラーロック後セルフタイマーをセットするとミラーロックが解除されます。
7. ミラーロックの解除はミラーロックレバーをM位置から白指標位置に回します。ミラーは自動的に戻ります。

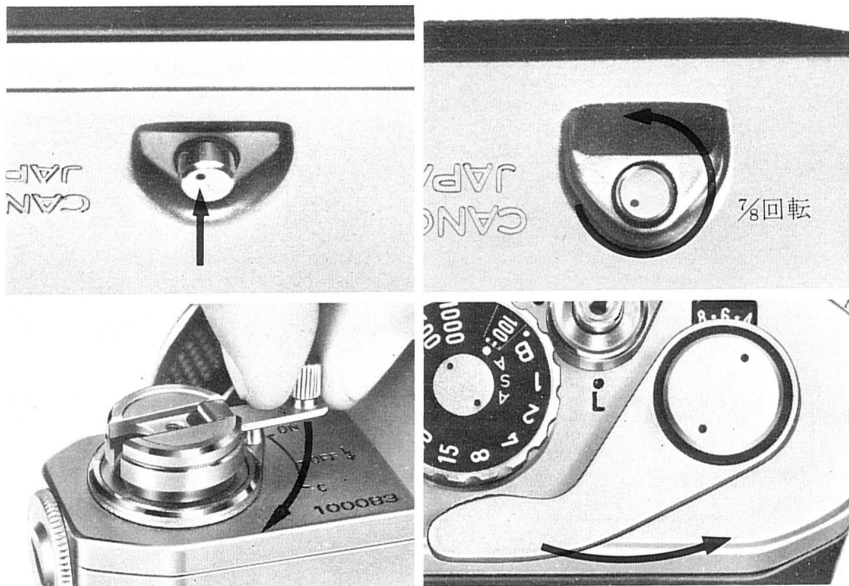


【二重露出】

このカメラは通常の手扱いは、二重露出防止になっていますが、必要に応じて次のようにすれば二重露出ができます。

1. 第一回目の露出が終わったら、巻戻しボタンを押します。
2. 巻戻しボタンの指標を見ながら、巻戻しクランクでフィルムを巻戻し、
3. 指標が $\frac{1}{8}$ 回転したら巻戻しを止めます。 $\frac{1}{8}$ 回転をこえないことがコツです。
4. ついで巻戻しクランクを軽くおさえたまま、レバーの巻上げを行ない、巻戻しクランクに抵抗を感じたら、いったん巻上げ操作をやめます。
5. それから通常の巻上げを行ないます。

以上の操作を繰り返すと、同一フィルム面上に何回でも露出することができます。ただし、フィルムカウンターは巻上げごとに進みます。



【キヤノンフィルターのおすすめ】

レンズねじ径に応じて各種フィルターが用意されており、黒白フィルム・カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

キヤノンFTbの露出計はTTL方式ですから、露出倍数の補正は全く必要ありません。撮影効果をより高めるキヤノンフィルターをぜひお備えください。

種 類	フィルター効果	
UV(SL39・3C) 黒白、カラー共通	・紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多いところでは特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。	
黒	Y1(SY44・2C) Y3(SY50・2C)	・黒白フィルムを利用して、写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。
	GI(MG55C)	・赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。
白	OI(SO56・2C)	・青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。
	RI(SR60・2C) 黒白、赤外共通	・コントラストを強調し、場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。
黒カ ラ 白 共 用	スカイライト	・青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。
	ND4 ND8	・ND4は $\frac{1}{4}$ 、ND8は $\frac{1}{8}$ に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません
カ ラ	カラーコンバー ジョンA (12相当)	・タングステンタイプフィルムのデイルイトタイプ転換用
	カラーコンバー ジョンB (12相当)	・デイルイトタイプフィルムのタングステンタイプ転換用
 用	カラーコンバー ジョンA4	・デイルイトタイプフィルムの曇天および晴天日影用
	カラーコンバー ジョンB4	・デイルイトタイプフィルムの朝夕用
	カラーコンバー ジョンA8	・ユニバーサルタイプフィルムの曇天用 ・タングステンタイプフィルムの朝夕用
	カラーコンバー ジョンB8	・人工光フラッシュ用

【カメラの保存と手入れ】

《カメラの保存》

カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまい込んで放置しておくと、シミや錆を生ずることがあります。むしろ、しばしば使用してください。保存の場合は、水銀電池を抜き、さらにケースもはずしてください。

《カメラの手入れ》

野外で使ったカメラは塵埃がつきやすく、また雨の日や海辺で使ったあとは、知らないうちに水滴や塩分を受けてシミや錆などの悪い影響を及ぼしますから、なるべく早いうちに柔かい刷毛で埃を払い、乾いた柔かい布でていねいに拭いておいてください。レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹飛ばすか、柔かい刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。やむをえないときは洗いさらした柔かい清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜればなお可）をつけ、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。



強く拭いたり、埃の付いているまま拭くとかえってキズを付けますから注意が大切です。

フィルムのカスがたまると事故の原因になりますからお早目にご手入れに出してください。

カメラを海中に落としたときは、ほとんど修理不可能になります。この場合はカメラ材料店もしくは当社営業所・サービスステーションにご相談ください。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申上げることができます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるような心づかいをおすすめします。

極寒地では、カメラを撮影時以外に直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落とさずにすみます。また冷えたカメラで撮影する場合、急激に温かい室内に入れたり、照明などで急速に温度を上昇させると、水分の凝結でレンズが曇り、撮影できないことがあります。

使用しないときは、レンズの保護のため、レンズキャップをつけてください。また水銀電池の消耗を防ぐため、スイッチをOFF ↓ にしておいてください。

カメラを高温場所に放置しないようご注意ください。たとえば車のリヤウインドウやトランクの中では時に60℃をこえることがあります。カメラ故障の原因になりますから絶対さけてください。キャップをはずしたままカメラを日光直射にさらさないでください。フィルムにかぶりを生じ、またミラーアップのさいシャッター幕に焼け穴ができます。

【交換レンズ】

《FD交換レンズ》

キヤノンFTbには、最高の撮影効果を期待できる専用のFD、FL交換レンズ群が豊富に完備しています。性能を十二分に発揮させるためにもぜひ専用の交換レンズをご使用ください。

FD17mm F 4	50,000円
FD24mm F 28	30,000円
FD28mm F 3.5	24,000円
FD35mm F 3.5	18,900円
FD35mm F 2	32,000円
FD50mm F 1.8	14,800円
FD50mm F 1.4	22,000円
FD55mm F 1.2	39,000円
FD100mm F 2.8(フード付)	27,000円
FD135mm F 3.5(フード付)	19,900円
FD135mm F 2.5(組込みフード)	29,000円
FD200mm F 4(組込みフード)	28,000円
FD300mm F 5.6(組込みフード)	45,000円

キヤノンFDズームレンズ

FD100mm~200mm F 5.6(組込みフード) 34,900円

FL-Fレンズ(蛍石レンズ)

FL-F300mm F 5.6(ケース付)	100,000円
FL-F500mm F 5.6(セット)	192,000円

超望遠レンズ(フォーカシングユニット併用)

FL400mm F5.6	65,000円
FL600mm F5.6	100,000円
FL800mm F 8	110,000円
FL1200mm F 11	160,000円

フォーカシングユニット 70,000円

金属収納箱FL400mm用 11,000円

金属収納箱FL600mm、FL800mm用 12,000円

金属収納箱 FL1200mm用 16,000円

マクロレンズ

FL50mm F 3.5 (ライフサイズ・アダプター付) 28,900円

FLM100mm F 4 (ベローズ専用) 16,100円

特殊レンズ

フィッシュアイ75mm F 5.6(魚眼レンズ) 73,000円

FD55mm F 1.2AL(非球面レンズ) 145,000円

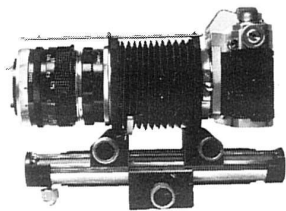
※上記の他、FLレンズのすべてが使用できます。

【アクセサリ】

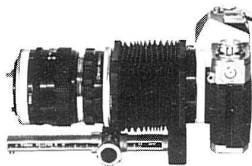
- ブースター(超高感度補助メーター) 9,800円
- ベローズ FL 14,000円
- ベローズ M 5,500円
- マクロフォトカブラー FL55, FL58 各 4,500円
- スライドデュプリケーター(複製装置)(48mm, 55mmセット) 各 4,500円
- エクステンションチューブ Mセット(M5, 10, 20×2) 3,600円
- マグニファイアーアダプター[R] 800円
- マグニファイアー S 2,500円
- アングルファインダー A 3,900円
- スピードライト133 Dセット 各 13,500円
(スピードライト133 D 8,500円)
(フラッシュオートリングA₂またはB₂ 5,000円)
- フラッシュV-3(ケース付) 3,500円
- マイクロフォトフード 1,200円
- フォトマイクロユニット F (簡易顕写装置) 3,500円
- キヤノンレリーズ30 550円
" 50 800円
- カメラホルダー F 2,000円
- レンズフードBS-55 1,000円
レンズフードBS-58 1,000円
- 58mmクローズアップレンズ 240, 450, 1800 各 2,000円
- 55mmクローズアップレンズ 240, 450 各 4,000円
- フィルター 55mm 1,100円
" 58mm 1,600円
- アイカップ角型 200円
- ハンディスタンド F(一式) 4,900円
- コピースタンド 4 11,000円
- ギャゼットバッグ 4 型 3,500円
- ギャゼットバッグ G-1 12,000円



1



2



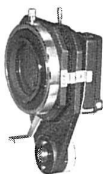
3



4



5



6



7



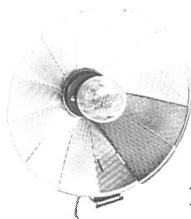
8



9



10



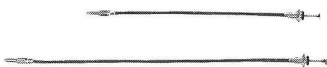
11



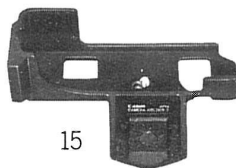
12



13



14



15



16



17



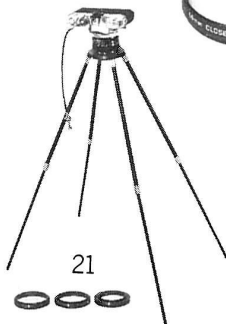
18



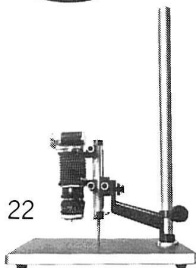
19



20



21



22



24

23

絞込みロックレバー
兼ミラーロックレバー

絞込み測光レバー
兼セルフタイマーレバー

絞り信号連動レバー

自動絞り作動レバー

開放F値補正レバー

フラッシュターミナル

水銀電池室蓋

裏蓋

三脚ねじ穴

巻戻しボタン

視度補正レンズさし込み溝

ファインダー接眼部

【キヤノンブースターのおすすめ】

微光量下の被写体を完全測光するキヤノンブースター

価格 9,800円(ケース付)

《ブースターの使用》

暗い被写体，夜景撮影のさい取付けて測光する超高感度補助メーターです．絞込みによってマイナス領域まで測光できます．

《ご使用上の注意》

FTbで使用する場合，測定ダイヤル上の機種表示窓にP（あるいはPFb）マークを表示してください．Fマークで使用すると露出が一段不足します．ただし使用できる秒時は $\frac{1}{30}$ 秒～30秒までで，60秒では測光できません．

《性能》

CdS受光体：FTbに組込まれたものを利用する．

測光範囲：ASA100EV-35～10< F 12 15秒～F 22 $\frac{1}{2}$ 秒>

フィルム感度：ASA20～12,800

測光方式：ゼロ調節，露出時間読取り式

使用シャッター目盛：FTb用

30～ $\frac{1}{30}$ 秒

照明ランプ：メーター表示窓の
照明用ランプあり．カ
メラ側の電源を利用．

電 源：H-D型水銀電池13V 2
コ使用

電源チェッカー：切換えスイッ
チ兼用．

大きさ：65×45×39mm

重量：180g



キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社

東京都港区芝公園2-3-21 ☎105 ☎(03) 432-8111

東京営業部・(105)	東京都港区芝公園2-3-21	(03) 432-8111
" 千葉分室・(280)	千葉市千葉港4番3号(千葉県私学会館4階)	(0472) 43-9624
大阪営業部・(541)	大阪市東区瓦町5-39(大阪化繊会館3階)	(06) 202-6761
" 京都分室・(600)	京都市下京区四条通東洞院角(富国生命ビル4階)	(075) 211-1388
" 金沢分室・(920)	金沢市高岡町2-37(不銀ビル5階)	(0762) 63-0238

サービスステーション

銀座	座・(104)	東京都中央区銀座5-9-9	(03) 572-4251
大阪	・(530)	大阪市北区梅田2(第一生命ビル2階)	(06) 341-9335
名古屋	屋・(450)	名古屋市中村区堀内町4-1(毎日会館2階)	(052) 581-3811

営業所・サービスステーション

札幌	幌・(060)	札幌市中央区北三条西4-1(第一生命ビル4階)	(011) 231-1313
仙台	台・(980)	仙台市一番町1-1-30(やまと生命仙台ビル6階)	(0222) 66-4151~7
新潟	湯・(950)	新潟市東大通1-4-1(マルタケビル7階)	(0252) 46-0131~3
横浜	浜・(231)	横浜市中区南仲通り4-39(石橋ビル1階)	(045) 201-2176
静岡	岡・(420)	静岡市鷹匠2-7-2(静米会館1階)	(0542) 55-2241
名古屋	屋・(466)	名古屋市昭和区阿由知通り4-13(朝日生命ビル6階)	(052) 851-4551
岡山	山・(700)	岡山市平和町4番7号	(0862) 22-8228
広島	島・(730)	広島市幟町14-11	(0822) 21-4615~6
福岡	岡・(812)	福岡市博多区博多駅前4-20-23(セントラルビル1階)	(092) 41-4172

